

近鉄郡山駅周辺地区
まちづくり基本構想

奈良県・大和郡山市

平成 28 年 8 月

目次

1	近鉄郡山駅周辺地区まちづくり基本構想策定にあたって	1
1.1	背景と目的	1
1.2	対象区域	1
1.3	策定の流れ	1
2	市全域の概況	2
2.1	大和郡山市の概況	2
2.2	大和郡山市の産業	5
2.3	財政状況	6
3	駅周辺地区の位置づけ	7
3.1	上位計画における駅周辺地区の位置づけ	7
3.2	駅周辺地区の城下の成り立ちと現在	10
3.3	駅周辺地区の広域的位置付け	11
4	駅周辺地区の概況	12
4.1	人口変遷	12
4.2	土地・建物利用状況	17
4.3	交通状況	21
4.4	まちのにぎわい	26
4.5	地域資源	29
5	まちの特性～まちの強み・弱み～	30
6	まちづくりの課題	31
7	近鉄郡山駅周辺の将来ビジョン	35
7.1	まちづくりのコンセプトと将来像	35
7.2	まちづくりの視点	36
7.3	将来のまちの構造	37
7.4	まちづくりの基本方針と取り組みの柱	38
7.5	近鉄郡山駅周辺地区まちづくり基本構想の体系	43
7.6	まちづくり構想図	44
7.7	まちづくりの推進にあたって	45
8	参考資料	46
8.1	第1回 近鉄郡山駅周辺まちづくりワークショップ結果	46
8.2	第2回 近鉄郡山駅周辺まちづくりワークショップ結果	47
8.3	大和郡山市まちづくり委員会名簿	48

1 近鉄郡山駅周辺地区まちづくり基本構想策定にあたって

1.1 背景と目的

本計画は、本市の商業・業務機能が集積し、旧城下町の歴史的なまちづくりが形成されている近鉄郡山駅周辺地区を対象に、市民・事業者・行政等で協働してまちづくりを推進するため、地区が抱える課題や将来ビジョンを共有し、本市の中心としてふさわしいまちづくりを実現するための基本的な方向性（基本構想）を定めるものである。

1.2 対象区域

近鉄郡山駅を中心に、(都)城廻り線及びJR 関西本線で囲まれる地区を本構想の検討対象範囲とした。

また、この対象範囲を「駅周辺地区」と呼称する。

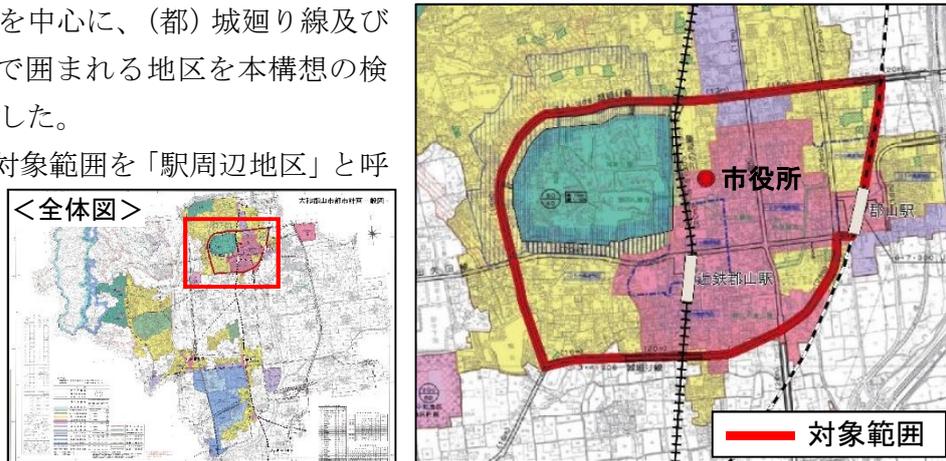


図 1.1 対象範囲

1.3 策定の流れ

近鉄郡山駅周辺地区まちづくり基本構想策定にあたっては、奈良県と大和郡山市にてまちづくりに関する包括協定を締結し、検討会やワーキングを重ねて検討を進めていくものとした。また、検討を進める中では、市民や地元団体等の意見反映を目的としたワークショップの開催、学識専門家からのアドバイザーレビュー、関係機関との協議等を踏まえ、基本構想を策定した。

また、本基本構想を踏まえ、今後は基本計画として計画熟度を高めていくことを予定している。

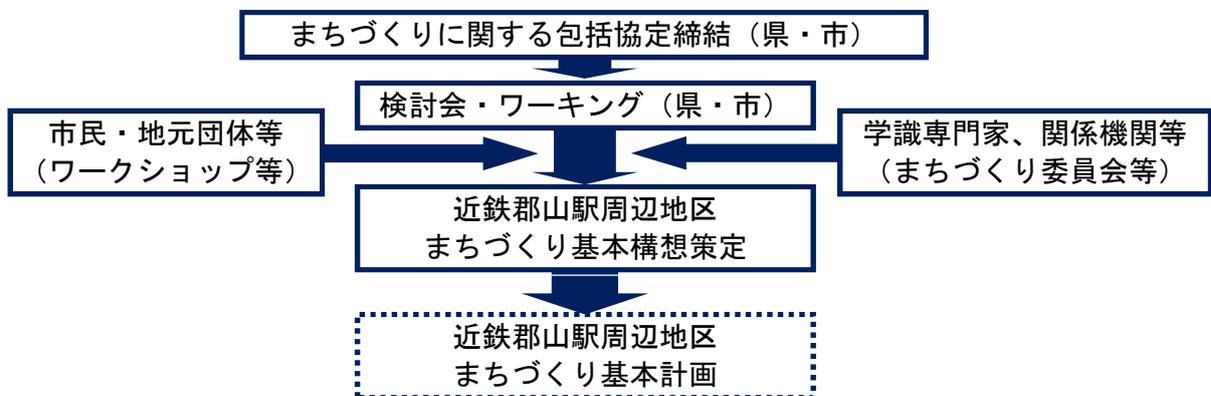


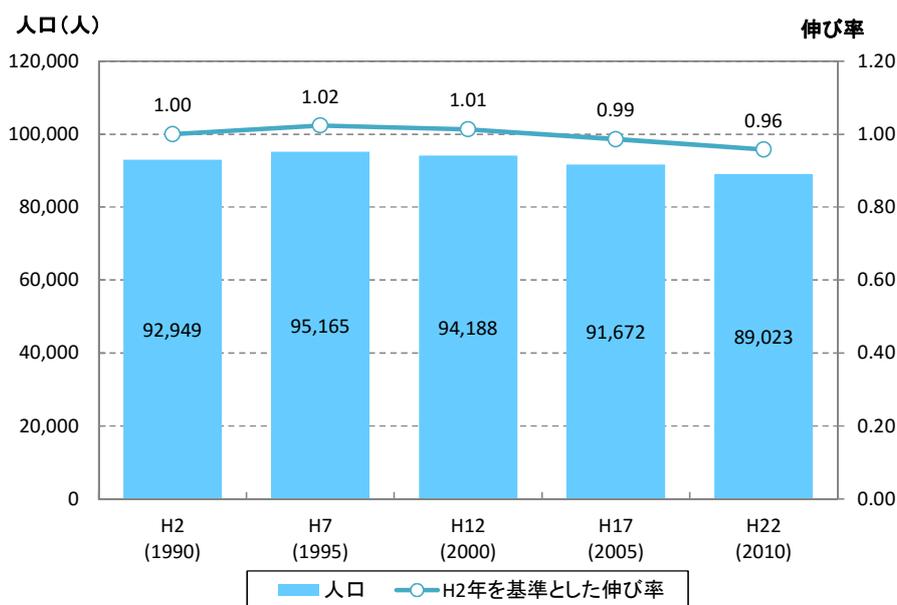
図 1.2 策定の流れ

2 市全域の概況

2.1 大和郡山市の概況

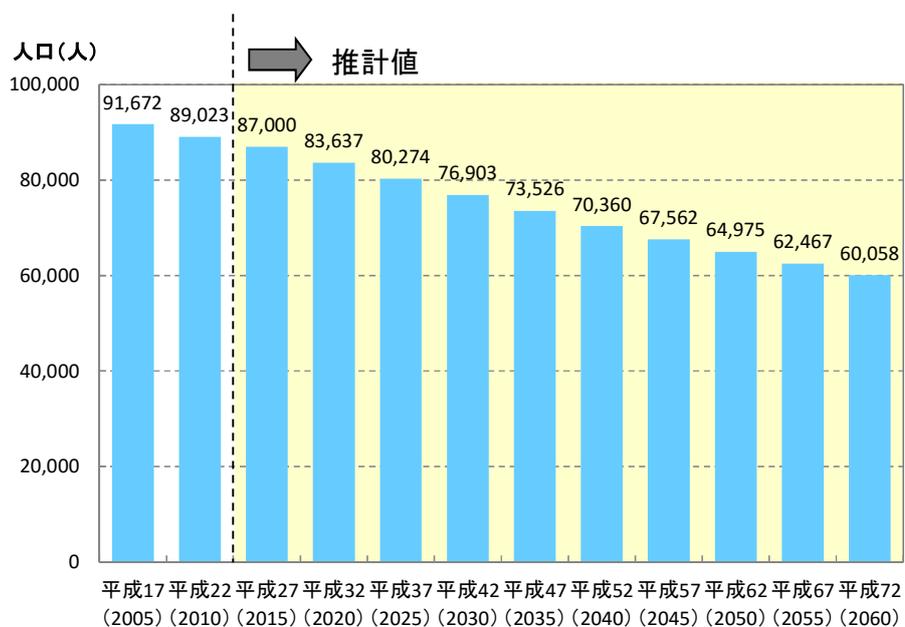
(1) 人口変遷

- 市全域の人口は平成 12 年以降減少に転じ、平成 22 年は約 890 百人となっている。
- 平成 27 年以降においても減少が継続すると予測されている。



資料: 国勢調査(各年)

図 2.1 人口の推移

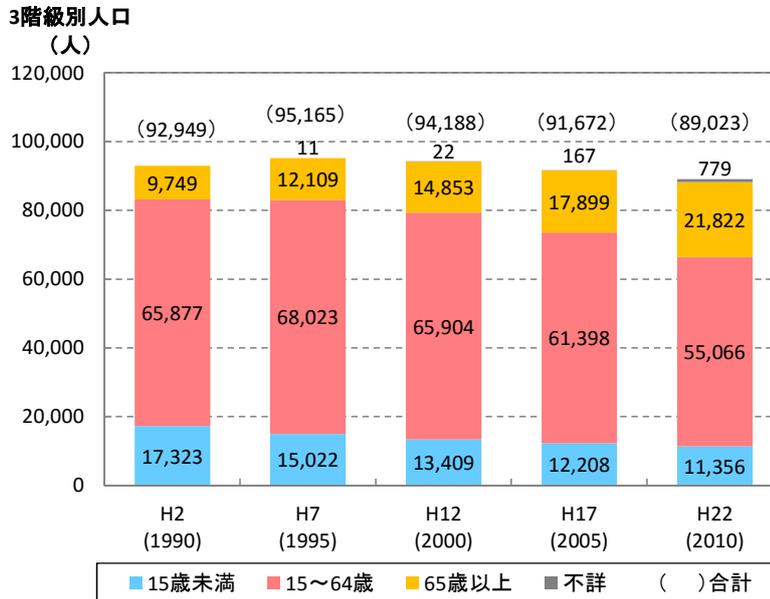


資料: 国勢調査(平成 17 年～平成 22 年)、大和郡山市人口ビジョン「人口の将来展望(目標ケース)」

図 2.2 将来人口の予測

(2) 年齢階級別人口の変遷

- 大和郡山市の年齢階級別人口について、年少人口（15歳未満）は平成2年以降減少を続け、生産年齢人口（15～64歳）は平成7年に減少に転じている。
- 一方、老年人口（65歳以上）は、平成2年（約0.9万人）から平成22年（約2.2万人）までの20年間で2倍以上に増加している。

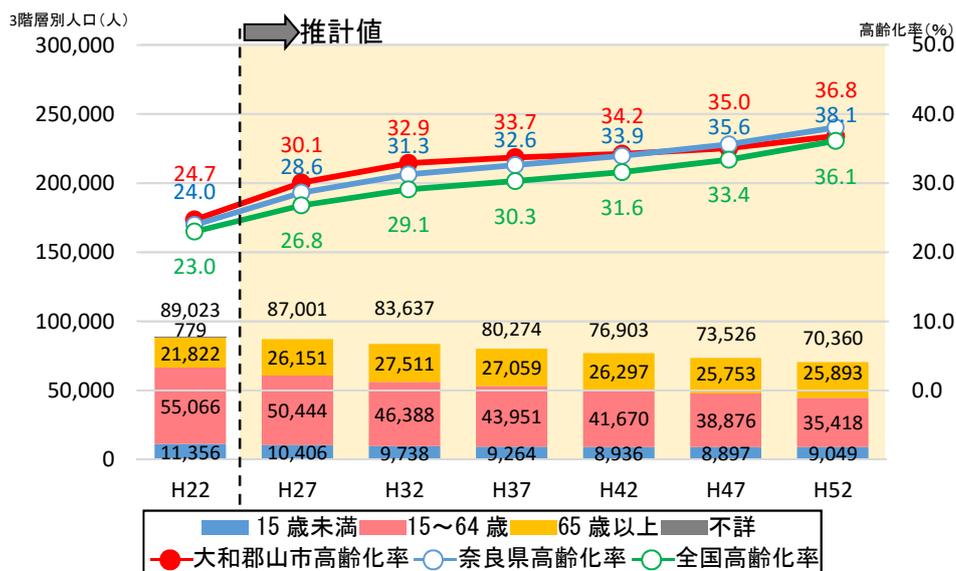


資料：国勢調査(各年)

図 2.3 3階級別人口の推移

(3) 高齢化率の推移

- 高齢化率は平成22年で約25%となっており、奈良県、全国と同様、平成27年以降も増加していくと予測されている。



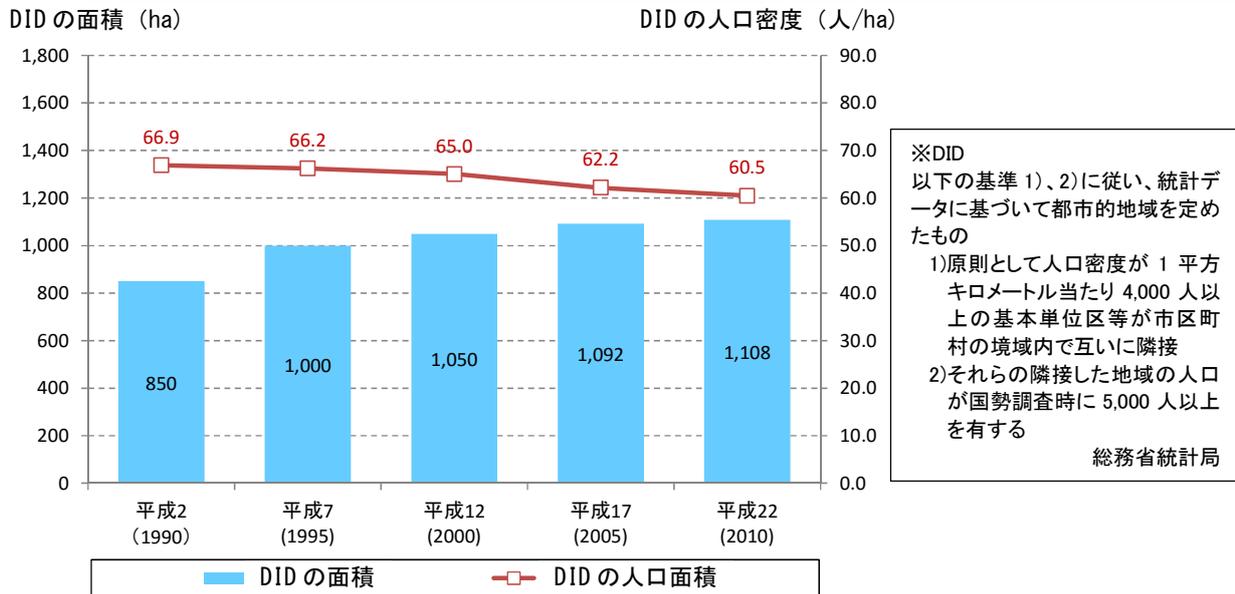
資料：H22年人口：国勢調査(H22)

H27年以降人口 大和郡山市人口ビジョン「人口の将来展望(目標ケース)」
奈良県及び全国：国立社会保障・人口問題研究所(H27～H52)

図 2.4 高齢化率の推移

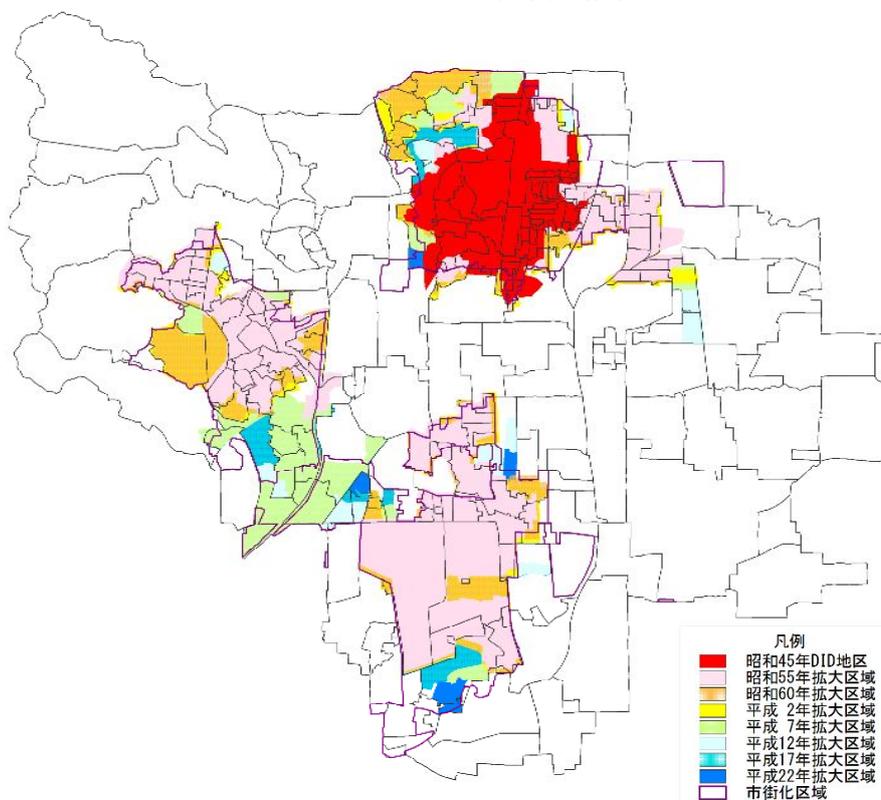
(4) DID(人口集中地区)の変遷

- 駅周辺地区は、古くから DID 地区となっている。
- 市域全体でみると、面積は平成 2 年の 850ha から平成 22 年には 1,108ha に拡大し、逆に人口密度は平成 2 年の 66.9 人/ha から平成 22 年には 60.5 人/ha に減少していることから、人口集積の拡散が進行しているといえる。



資料:国勢調査(各年)

図 2.5 DID の人口密度の推移



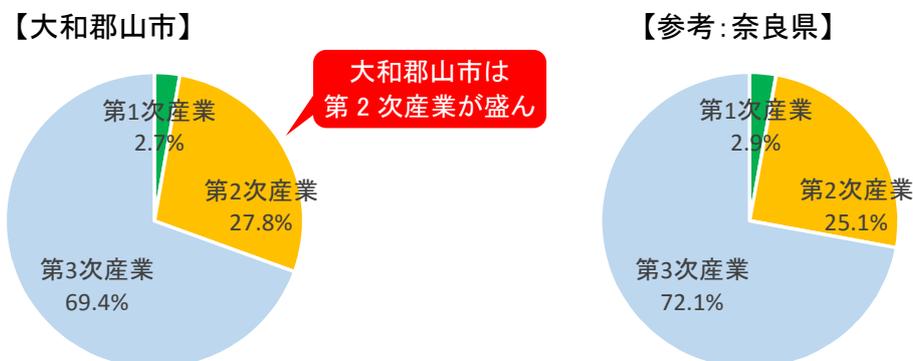
資料:国勢調査(国土数値情報 『人口集中地区データ(S45,S55,H2,H12,H22)』『都市地域データ(H23 現在)』)

図 2.6 DIDの変遷

2.2 大和郡山市の産業

(1) 就業構造

- 大和郡山市には奈良県最大の工業団地が存在しており、就業人口割合は製造業等を含む第2次産業が奈良県全体と比較して高くなっている。

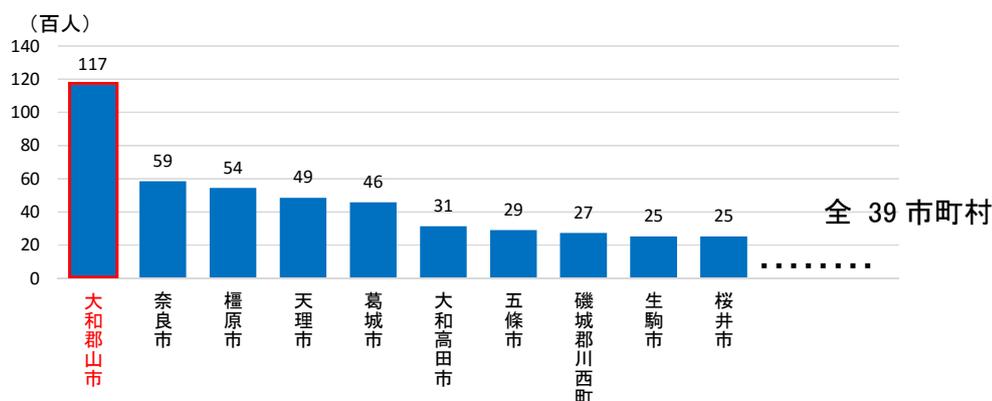


資料: 国勢調査 (H22)

図 2.7 大和郡山市の就業構造

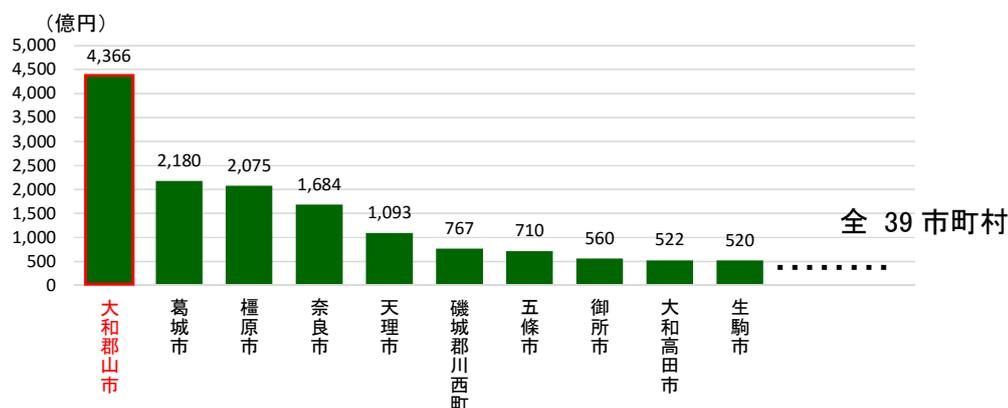
(2) 製造業に関する指標

- 大和郡山市は、奈良県下において製造業従業者が最も多く、かつ製造品出荷額等も1位となっている。



資料: 経済センサス (H24)

図 2.8 奈良県内 市町村別製造業従業者数ランキング

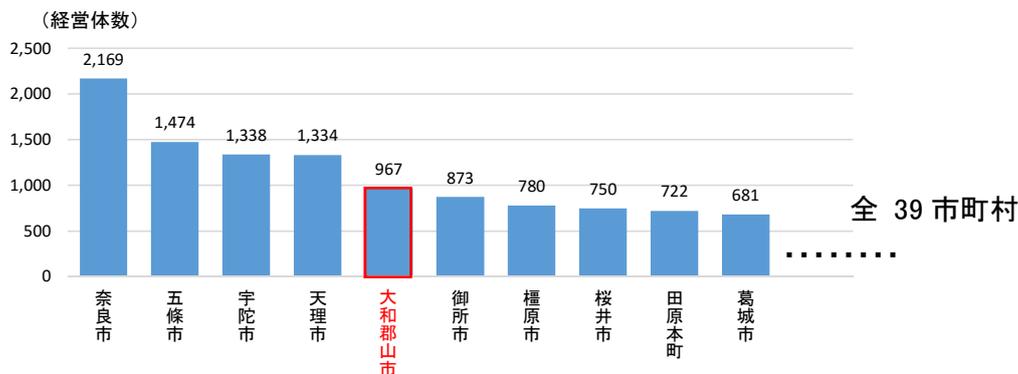


資料: 経済センサス (H24)

図 2.9 奈良県内 市町村別製造品出荷額等ランキング

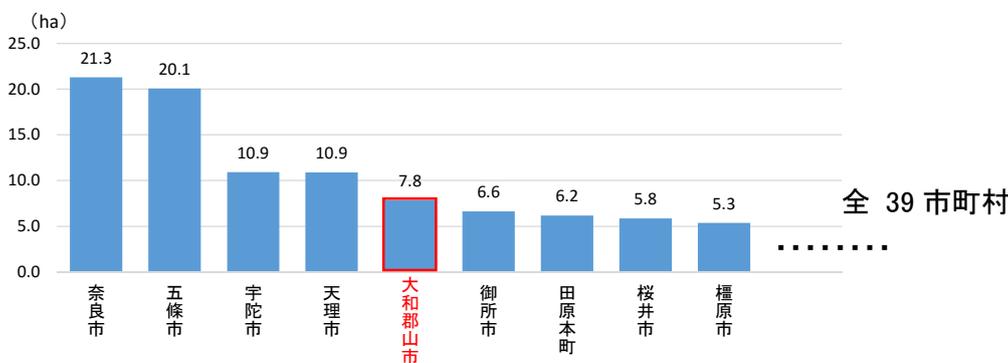
(3) 農業に関する指標

- 大和郡山市は、奈良県下においても農業販売経営体数、経営耕地総面積が上位となっている。



資料: 農林業センサス(H22)

図 2.10 奈良県内 市町村別農産物販経営体数ランキング

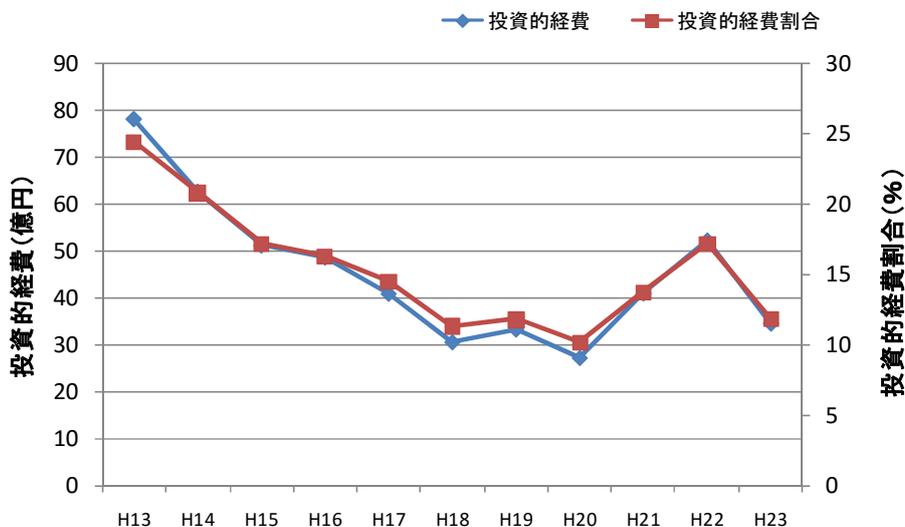


資料: 農林業センサス(H22)

図 2.11 奈良県内 市町村別経営耕地総面積ランキング

2.3 財政状況

- 将来に残る施設等の社会資本を整備するための投資的経費（普通建設事業費等）は、その額だけでなく、歳出に占める割合も減少傾向にある。



資料: 大和郡山市における公共施設マネジメントに関する共同研究報告書(H27)

図 2.12 投資的経費、投資的経費割合の推移

3 駅周辺地区の位置づけ

3.1 上位計画における駅周辺地区の位置づけ

(1) 総合計画

大和郡山市第4次総合計画（平成28年3月策定）において「あふれる夢と希望と誇り 暮らししてみたいくなる 元気城下町（やまとこおりやま）」を将来像にまちづくりの方針が示されている。本計画では「まちの活力を生み、持続的な発展を可能とする秩序ある土地利用」、「本市に適したコンパクトなまちづくり」といったキーワードで土地利用の方針が示されている。また、駅周辺地区は土地利用方針図において“歴史が生きる賑わいの中心市街地地区”に位置づけられている。

大和郡山市 将来像

あふれる夢と希望と誇り 暮らししてみたいくなる 元気城下町(やまとこおりやま)

- 基本方針① 夢と誇りがもてる、過去と未来をつなぐまちづくり
- 基本方針② 信頼と協働が育む、次世代を切り開くまちづくり
- 基本方針③ 誰もが住みたいくなる、働きたいくなるまちづくり

戦略目標

- 戦略目標1: 既存事業者の経営安定化と新規起業チャレンジ等により雇用を創出する
- 戦略目標2: 職住近接や多世代住居・近居住居、生活環境の確保により定住者を増やす
- 戦略目標3: 結婚・出産・子育てしたいと思われる環境を構築する
- 戦略目標4: 時代に合った安全・安心な地域づくりと地域資源の有効活用により好循環を導く

土地利用構想

<現状と課題(要約)>

今後、着実に進む京奈和自動車道路の延伸により益々広域的な交通条件が向上するとともに、リニア中央新幹線の名古屋～大阪間の構想の具体化に向け、中間駅設置の提案への対応が必要。この様に、次世代の可能性にチャレンジする、魅力的で積極的な施策を進めつつも、将来世代の負担を少なくするまちづくりに取り組むことが必要。

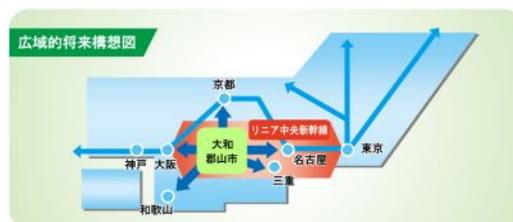
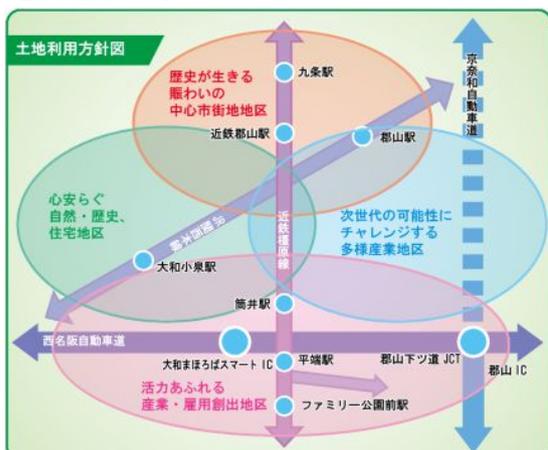
<基本構想>

広域的な交通体系が整備される中、農地や山林などの自然を保全しつつ、本市を取り巻く環境の変化をその時々で的確に捉え、**まちの活力を生み、持続的な発展を可能とする秩序ある土地利用**を進めていきます。また、高齢化・人口減少社会において、市民の利便性の維持・向上を図りつつ、環境負荷の少ない生活様式や地域社会を維持する財政的負担の少ないまちを目指すため、**本市に適したコンパクトなまちづくり**を進めていきます。

<取組み方針>

- 県や関係する鉄道会社、地元住民とともに賑わいを創造する中心市街地の再生
- 周辺自治体と連携した大和まほろば工業ゾーンの形成など、大和まほろばスマートICや郡山IC周辺の産業集積の維持・向上
- リニア中央新幹線中間駅の積極的な提案と具体化を受けた時点における適切な土地利用の検討

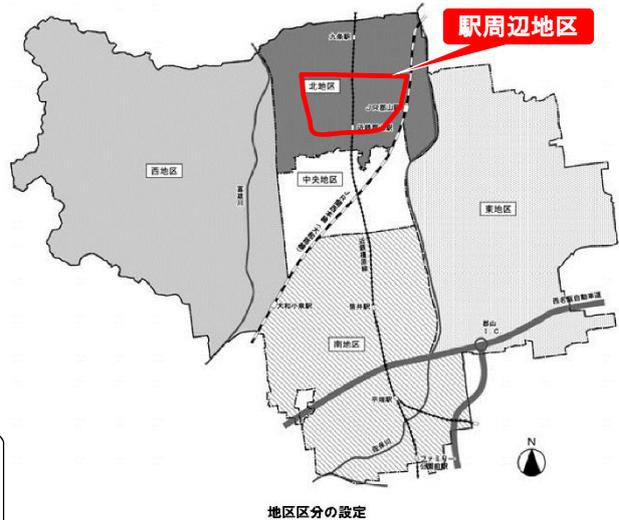
<土地利用方針図>



(2) 都市計画マスタープラン

大和郡山市都市計画マスタープラン（平成21年3月策定）における地区別構想では、駅周辺地区は“北地区”に位置づけられている。

本計画において、“北地区”は「市の中心にふさわしい商業・業務機能」や「歴史資源の活用」といったキーワードで将来像・目標が掲げられている。



北地区の課題

- ①大和郡山市の中心にふさわしい環境の整備
- ②多様な観光を活かしたにぎわいづくりの推進
- ③誰もが安全、安心して生活できるまちづくりの推進

北地区のまちづくりの将来像と目標

大和郡山市の中心にふさわしい風格あるまちづくり

【市の中心にふさわしい商業・業務機能の集積と景観形成をめざす】

- 近鉄郡山駅と JR 郡山駅とのセンターゾーンは、既存の商業・業務機能の集積を活かし、本市の中心市街地として、基盤整備と連動した土地の有効利用、高度利用を推進する。
- 景観形成重点地区では、歴史的なまちとしての個性を活かしながら、大和郡山市の顔としてふさわしい活気やにぎわいのある景観の創出を図る。

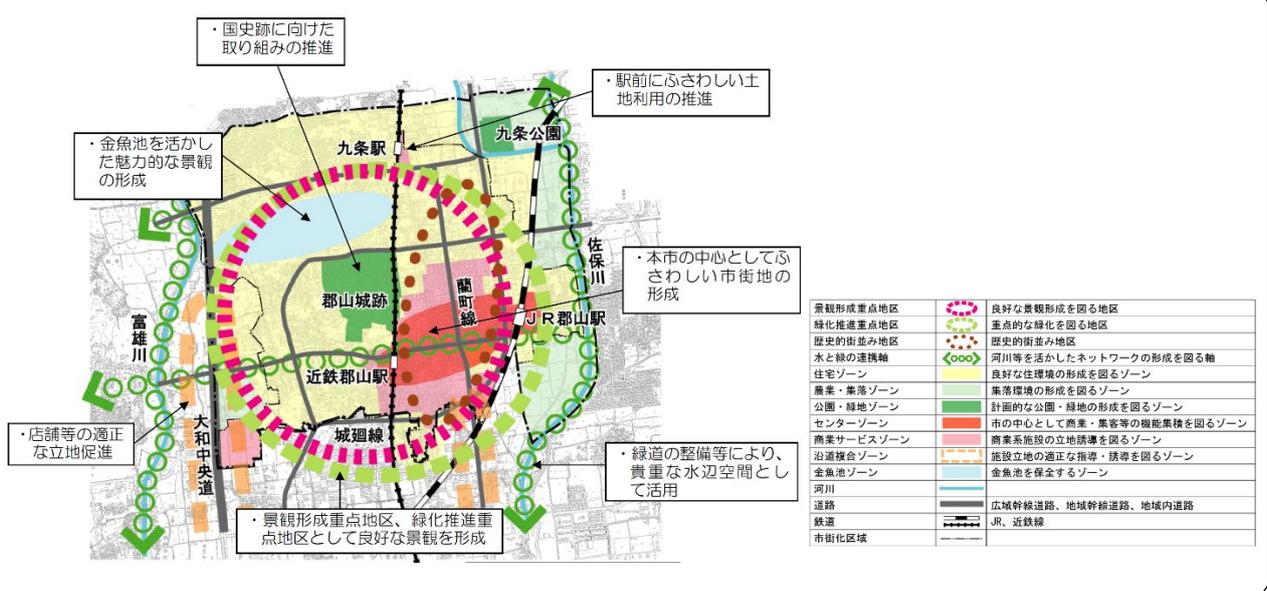
【歴史的資源を活かした観光都市の形成をめざす】

- 歴史的街並み地区では、城下町の風情と風格を伝えるような景観の形成を図る。
- 郡山城跡の歴史的資源としての価値を再認識して国史跡指定に向けた取り組みを推進し、本市だけでなく、奈良県全域に及ぶ文化、観光の拠点の形成をめざす。
- 歴史まちづくり法の活用などにより、郡山城跡、城下町等の貴重な地域資源の存在価値を高め、その維持・保存を図るとともに、羅城門遺跡等の平城京遺跡も含め、観光資源として活用し、地域の振興につなげる。

【誰もが安全に安心して生活できる環境づくりをめざす】

- JR 郡山駅、近鉄郡山駅を中心とする既存市街地については、建て替えの促進や道路等の都市基盤の整備により、都市災害の防止を図る。

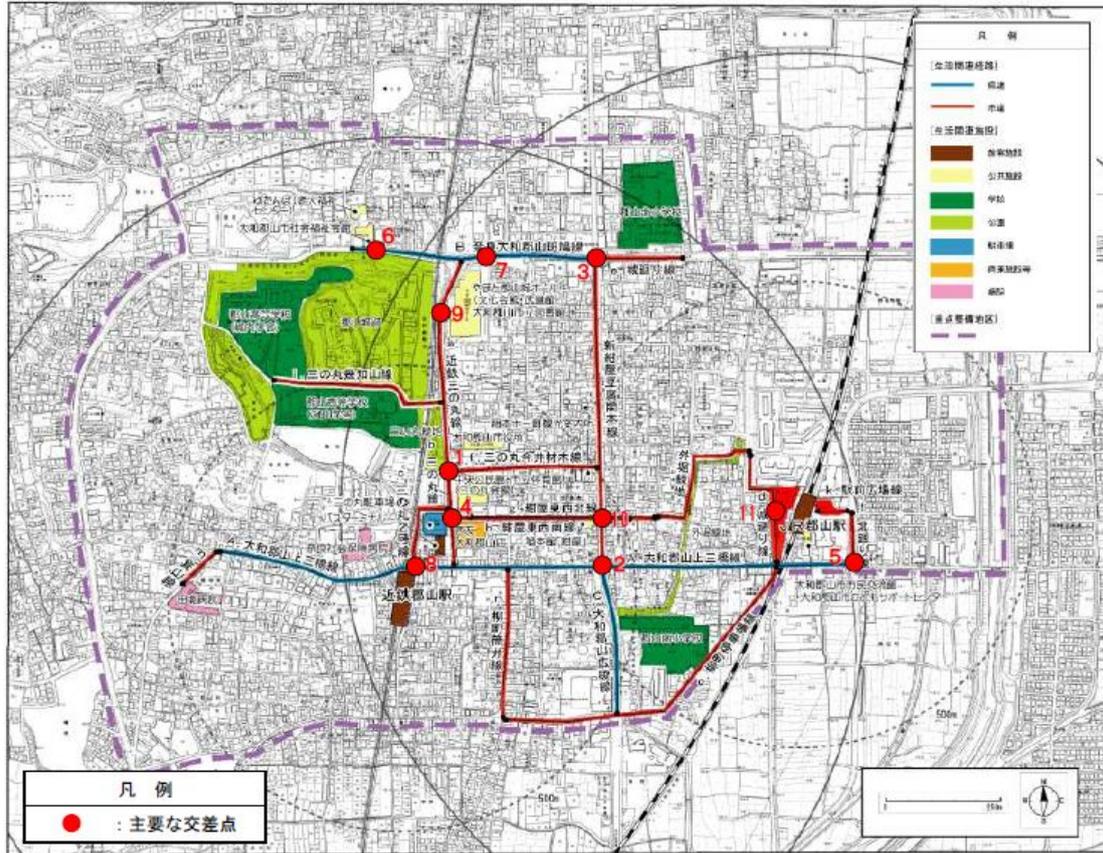
北区の整備方針図



(3) 大和郡山市バリアフリー基本構想・特定事業計画

大和郡山市バリアフリー基本構想・特定事業計画では、駅周辺地区が概ね“重点整備地区”と位置づけられ、主要な経路や交差点等を対象にバリアフリー化の整備方針が掲げられている。

<重点整備地区の範囲・生活関連経路等>



【生活関連経路および主要交差点位置図】

【路線名称】

整理番号	管理者 (事業者)	路線名称	区間
A	県	大和郡山上三橋線	北廻り線-箕山線
B	県	奈良大和郡山斑鳩線	新紺屋豆腐本線-社会福祉会館
C	県	大和郡山広陵線	大和郡山上三橋線-柳町停車場線
a	市	近鉄三の丸線	三の丸線-奈良大和郡山斑鳩線
b	市	三の丸線	大和郡山上三橋線-近鉄三の丸線
c	市	三の丸2号線	大和郡山上三橋線-近鉄三の丸線
d	市	城廻り線	外堀緑地北門-大和郡山上三橋線
e	市	城廻り線	郡山北小学校東-新紺屋豆腐本線
f	市	三の丸今井村木線	新紺屋豆腐本線-近鉄三の丸線
g	市	紺屋東北線	外堀緑地-近鉄三の丸線
h	市	紺屋西南線	外堀緑地-近鉄三の丸線
i	市	三の丸幾知山線	近鉄三の丸線-郡山高等学校
j	市	新紺屋豆腐本線	大和郡山上三橋線-奈良大和郡山斑鳩線
k	市	駅前広場線	北廻り線-JR 郡山駅
l	市	北廻り線	大和郡山上三橋線-駅前広場線
m	市	箕山線	大和郡山上三橋線-田北病院
n	市	柳町筒井線	大和郡山上三橋線-柳町停車場線
o	市	柳町停車場線	大和郡山上三橋線-柳町筒井線

【交差点名】

整理番号	管理者 (事業者)	交差点名
1	公安 委員会	市役所前
2		新紺屋町交差点
3		北郡山交差点
4		西友西側
5		JR 郡山駅東側
6		社会福祉会館前
7		城ホール北側
8		近鉄郡山駅周辺
9		城ホール西横断歩道
10		箱本館西横断歩道
11		JR 郡山駅西横断歩道

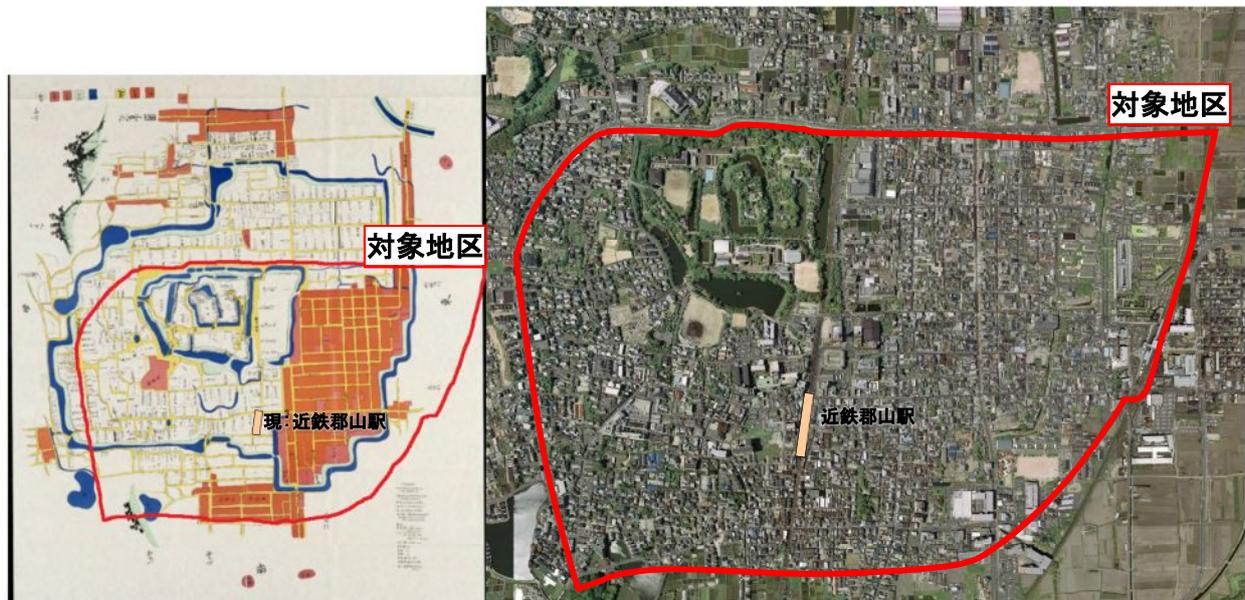
3.2 駅周辺地区の城下の成り立ちと現在

駅周辺の城下町は、大和統一を成した筒井順慶の郡山城への入城（1580年）後に形作られはじめ、豊臣秀長の時代に飛躍的に発展した。伝統的な建築物が建替えられるなど、近代化・都市化が進行しているものの、かつての町割・敷地割がおおむね踏襲されており、往時を偲ぶことができる。

多くの町家が立地していた駅東側の城下町地区は、現在でも古い町並みが比較的多く残っている。同一の業者が同一の地区に居住していた名残から、職業にちなんだ町名（茶町、藺町、綿町、豆腐町など）が今日に至るまで使用されていることも、貴重な財産となっている。現在は矢田町と柳町を中心に商業や併用住宅が集中し、高密度な敷地割を形成している。

かつての武家屋敷が立地していた城の直近の東部（近鉄沿線付近）や近鉄郡山駅周辺は町家に比べて敷地も広がったことから、現在では、役所や公共施設、学校等が多く分布し、市民サービスを支える機能を有している。

また、同様に敷地割が大きい城の南部は、現在でも低密な住宅地が広がり、屋敷林などの分布も見られる。



【和州郡山藩家中図】

資料：(公財)郡山城史跡・柳澤文庫保存会 所蔵

【平成25年航空写真】

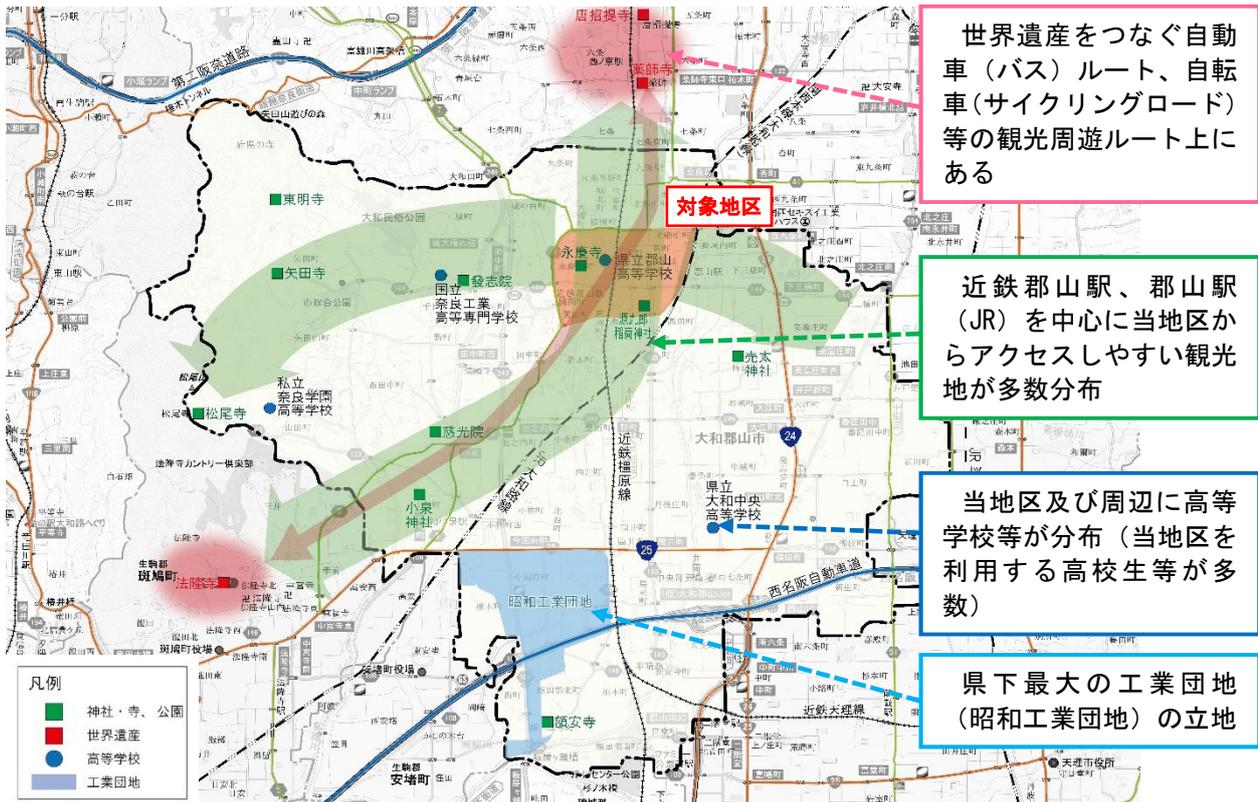
資料：市提供資料

図 3.1 地区の年代別状況

3.3 駅周辺地区の広域的位置付け

駅周辺地区の周辺には、鉄道、幹線道路網等の交通基盤が充実しており、地区外とのアクセスに適した立地特性を有している。

このため、周辺の歴史的な観光資源へのアクセス性に優れており、特に2つの世界遺産をつなぐ経路に位置する好立地にある。また、南部には県下最大の工業団地(昭和工業団地)が立地するほか、高校等も複数分布し、通勤・通学利用等が多い。このことから、駅周辺地区は広域的な観光、通勤・通学等の利用面からみて高いポテンシャルを有しているといえる。



資料:各施設のホームページ、大和路アーカイブ等

図 3.2 対象地区及びその周辺の特性

4 駅周辺地区の概況

4.1 人口変遷

(1) 人口変遷

- 駅周辺地区の人口は、市全域人口の約 16%（平成 22 年）を占める。
- 城下町として古くから高密な市街地を形成しており、周辺地区に比べて人口の増減が少ないという特徴を持っており、近年（平成 12 年から平成 22 年）においても、市全体が減少傾向にあるなかで、駅周辺地区はほぼ横ばいを維持している。

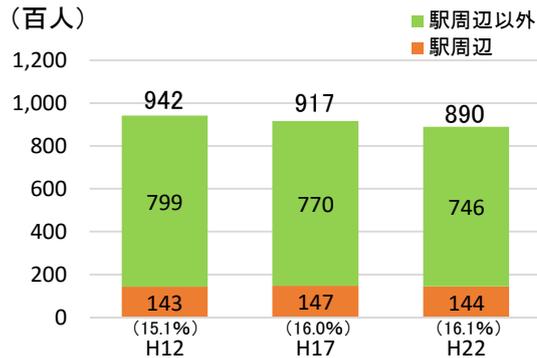
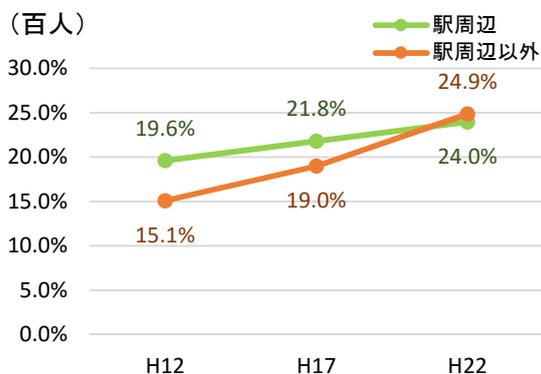


図 4.1 駅周辺と駅周辺以外の人口変遷

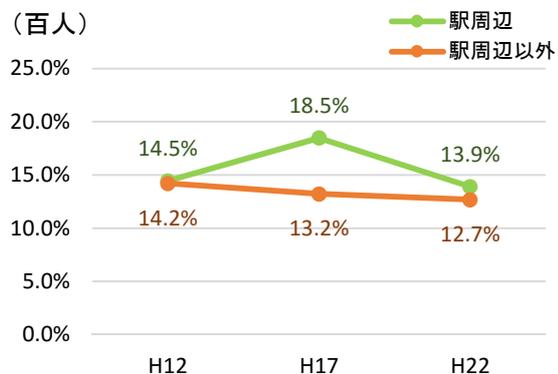
(2) 高齢化、少子率の推移

- 駅周辺地区の高齢化率（老年人口割合）は、周辺と比べて緩やかなものの、近年増加を続けている。
- 駅周辺地区の少子率（年少人口割合）は、平成 12 年から平成 17 年にかけて増加したものの、平成 22 年では減少に転じている。

【高齢化率】



【少子率】



資料：国勢調査（各年）

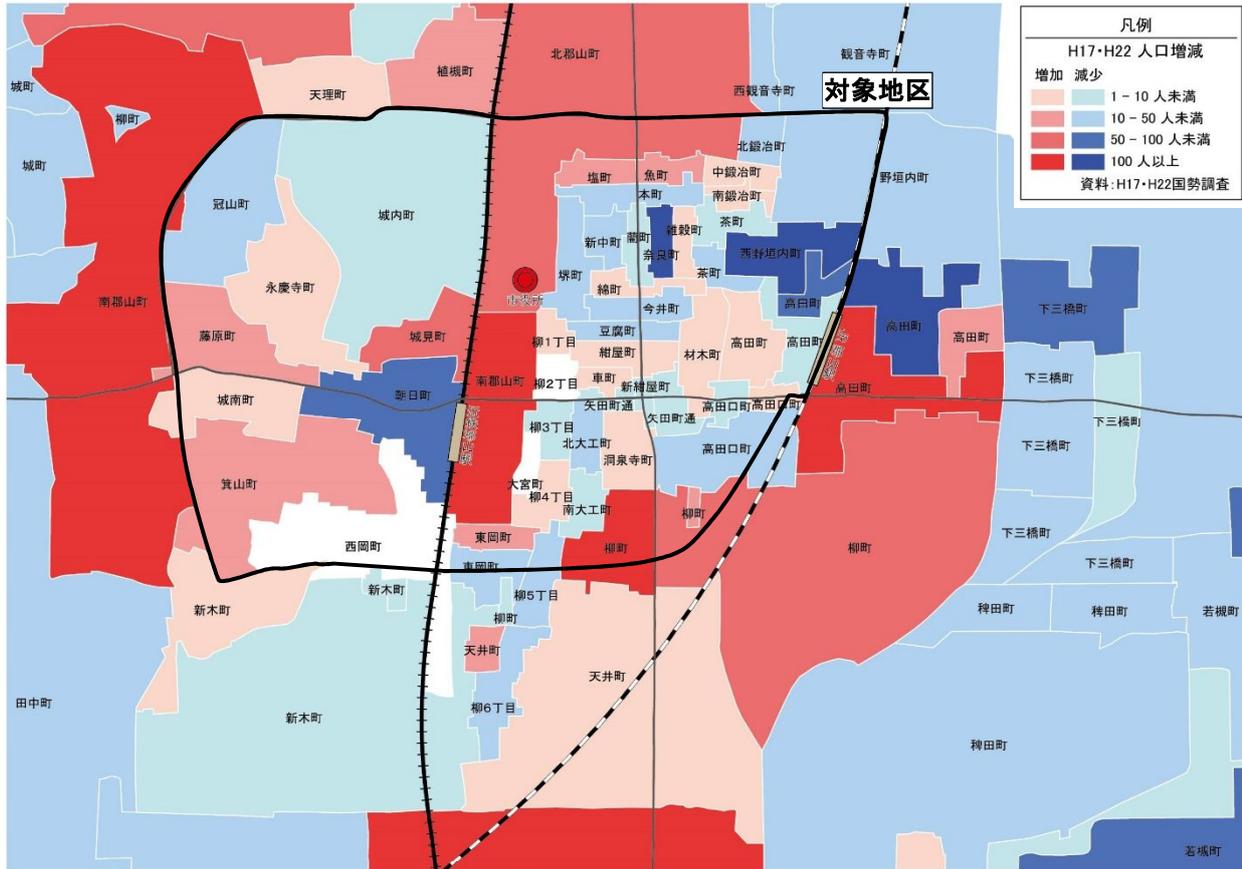
※老年人口は、65 歳以上で集計、年少人口は、15 歳未満で集計

図 4.2 高齢化の推移(左)、少子率の推移(右)

(3) 人口増減等

1) 人口の増減

- 駅周辺地区において、近年（平成 17 年～平成 22 年）人口増加が特に多い（100 人以上増加）地区は、駅直近の南郡山町や柳町となっている。
- 人口減少が顕著な（50 人以上減少）地区は、駅直近の朝日町のほか、地区北東部の奈良町、西野垣内町などである。しかしながら、朝日町においては平成 23 年以降、高層の共同住宅が新築され、人口の流入が進んでいると考えられる。



資料：国勢調査及び国土数値情報（H22）

図 4.3 駅周辺地区の人口増減

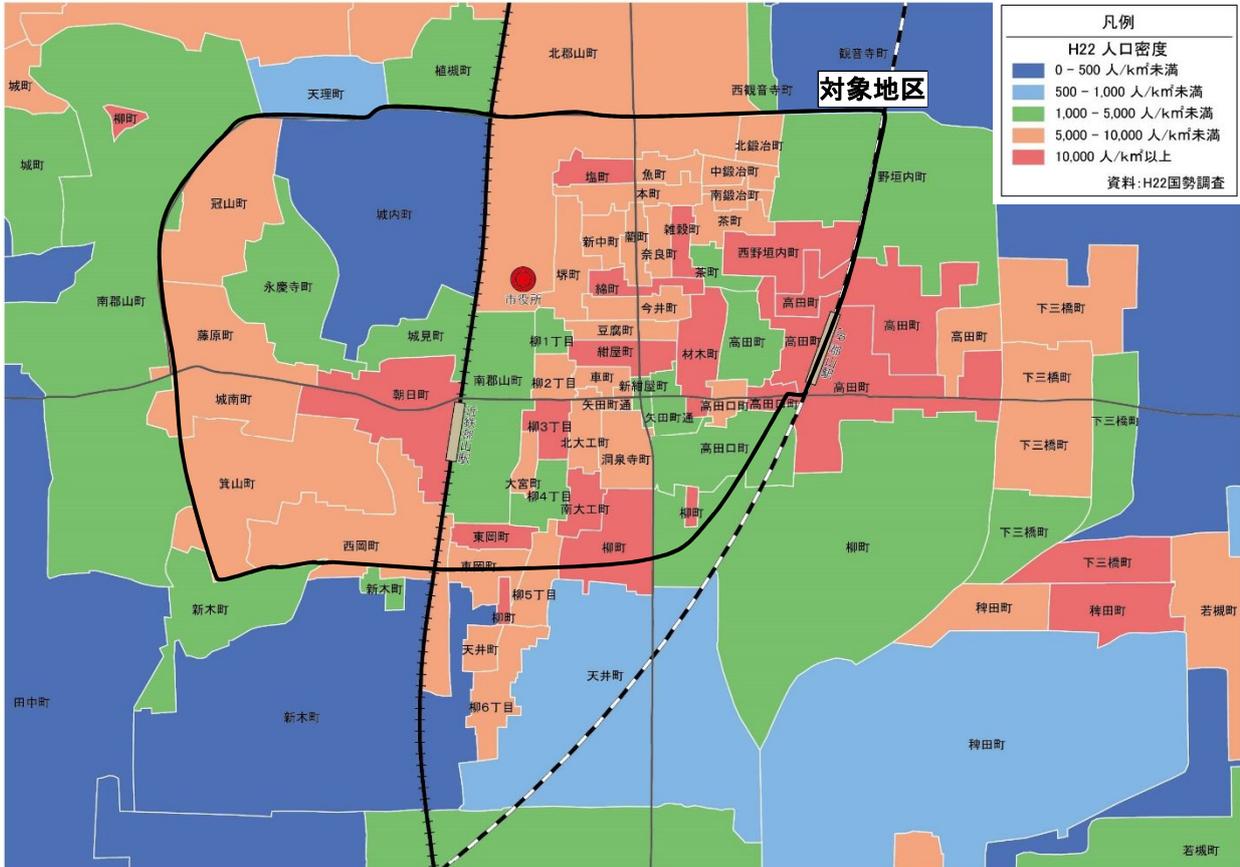
表 4.1 駅周辺地区 H23 年以降の住宅の新築状況

町名	年度	階数	用途	住宅戸数
朝日町	H23 年度	10	共同住宅	62
朝日町	H25 年度	10	共同住宅	97
城見町	H26 年度	2	戸建住宅	10
				合計 14 棟 169 戸

資料：大和郡山市開発指導要綱協議調べ

2) 人口密度

- 駅周辺地区の人口密度は、古くから敷地が小さな町家が形成されていた駅東側に高密度な（10,000人/km²）地区が多い。
- 駅西側では、駅直近の朝日町の人口密度が高くなっている。

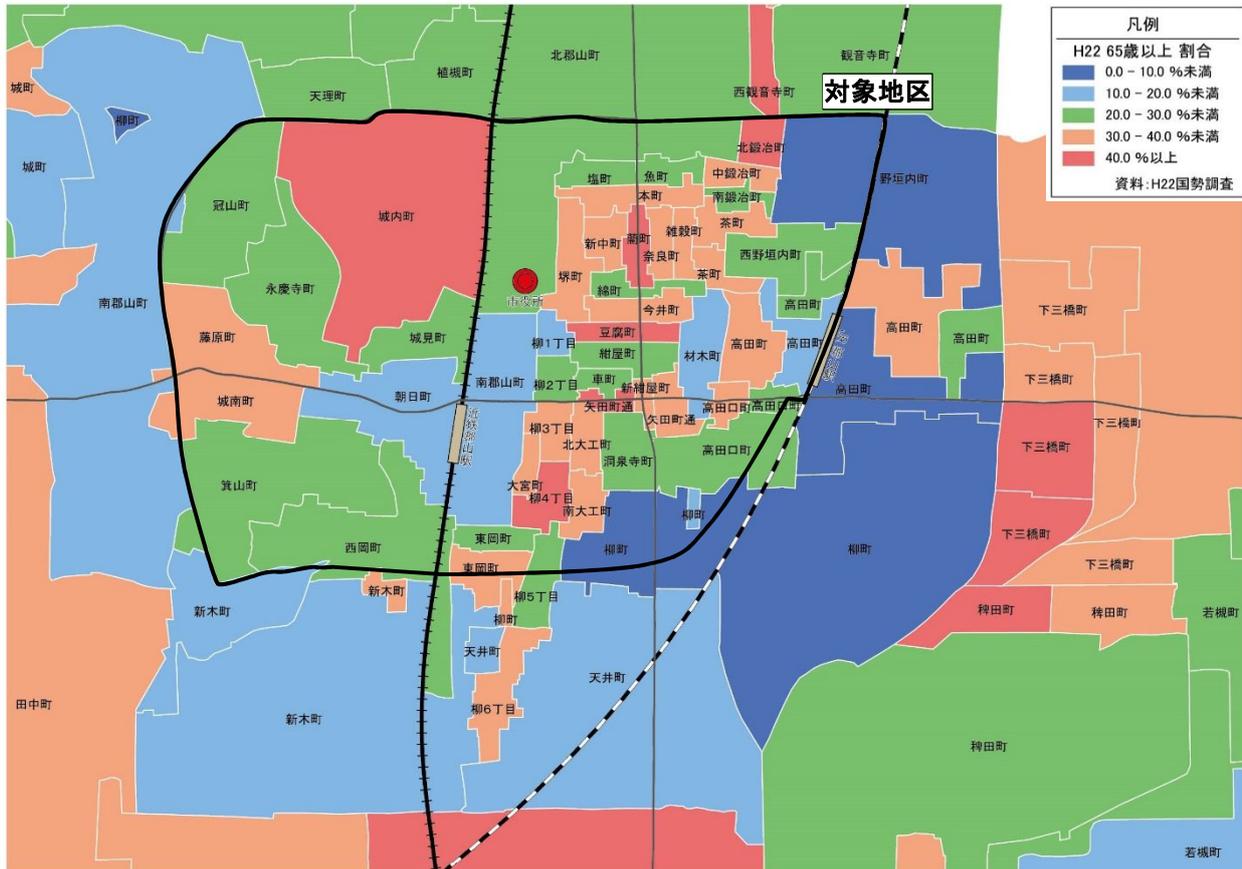


資料: 国勢調査及び国土数値情報(H22)

図 4.4 駅周辺地区の人口密度

3) 高齢化率

- 駅周辺地区の高齢化率（老年人口（65歳以上人口）割合）は、駅直近の南郡山町や朝日町などで低く（20%未満）なっている。
- 高齢化率の高い（30%以上）地区は、古くから敷地が小さな町家が形成されていた駅東側に多く分布している。

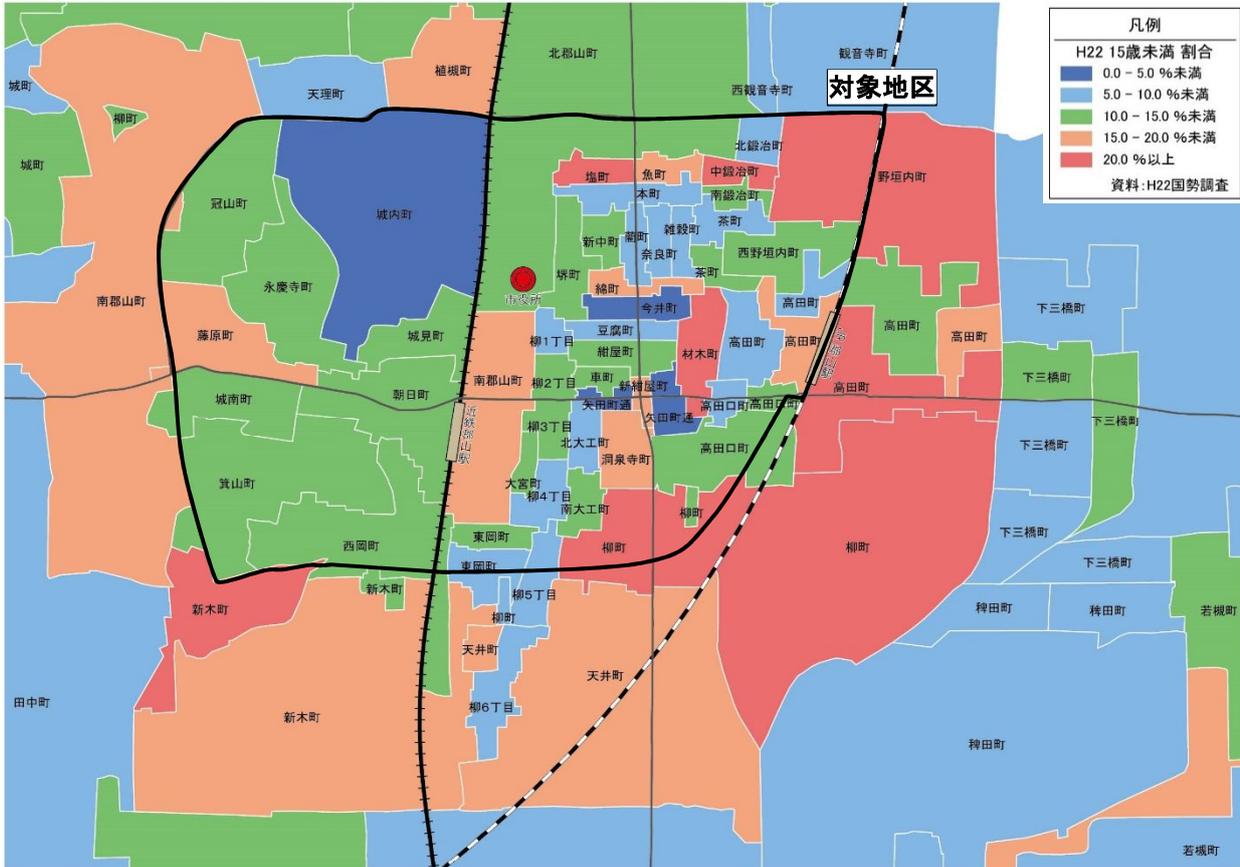


資料: 国勢調査及び国土数値情報(H22)

図 4.5 高齢者人口割合

4) 年少率

- 駅周辺地区の年少率（年少人口（15歳未満人口）割合）の低い（10%未満）地区は、高齢者人口割合の高い駅東側地区に多く分布している。
- 駅西側地区は総じて年少率が高く（10%以上）なっている。



資料：国勢調査及び国土数値情報（H22）

図 4.6 年少人口割合

4.2 土地・建物利用状況

(1) 都市計画(用途地域の指定)

- 駅周辺地区の用途地域は、駅東側は商業系用途が多く、駅西側は住居系用途が多く指定されている。

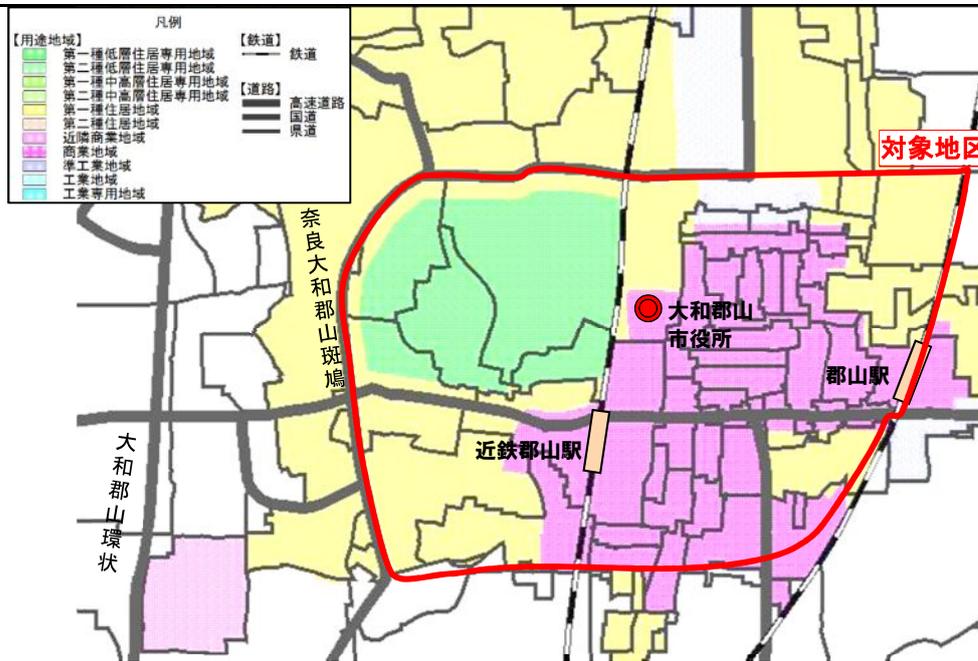


図 4.7 用途地域の指定状況図

(2) 建物利用状況

- 建物利用状況は、近鉄郡山駅周辺に商業、近鉄沿線に公益施設が多く分布している。

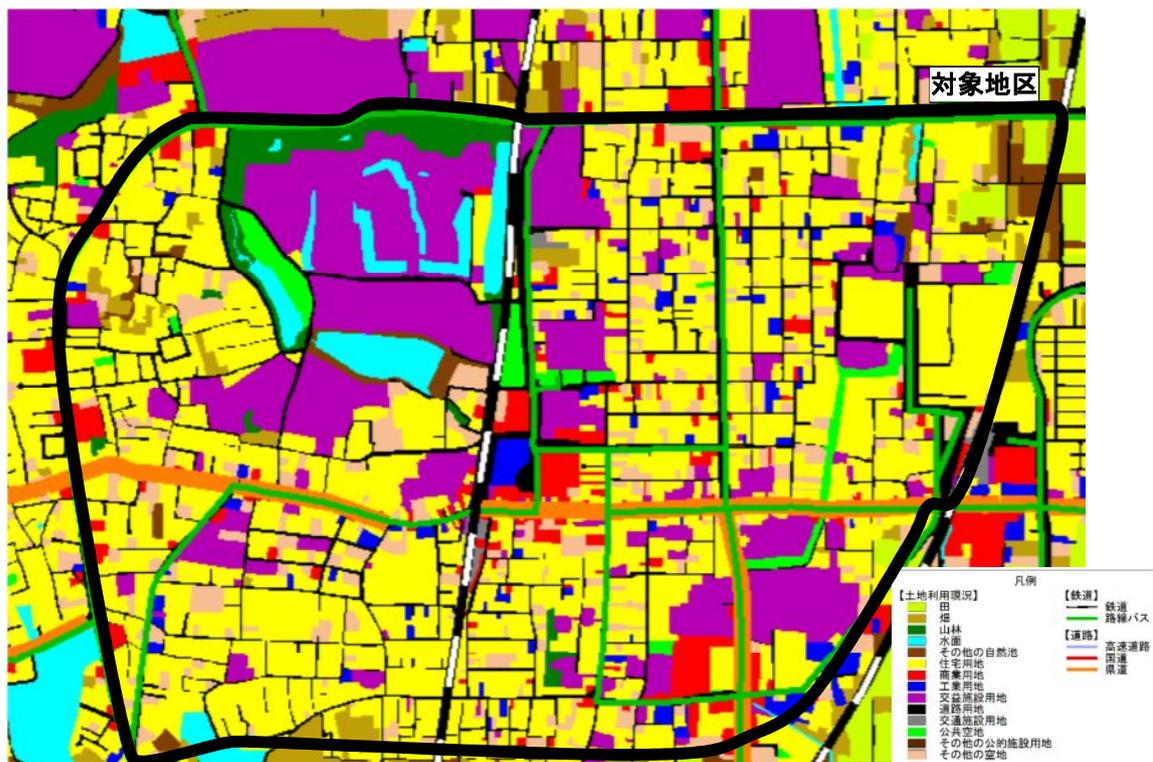
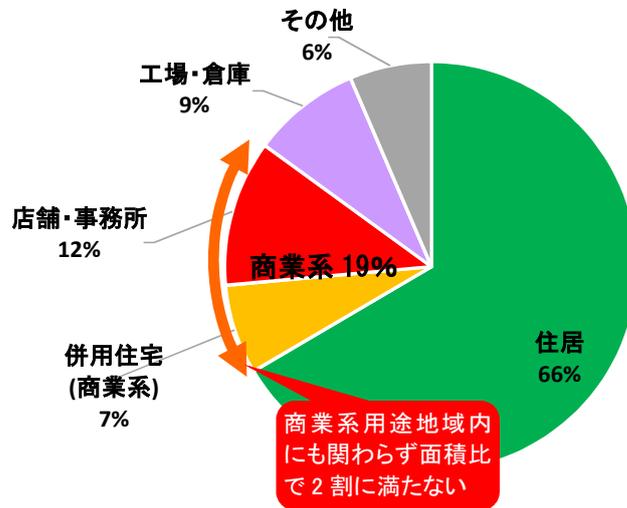


図 4.8 土地利用状況図

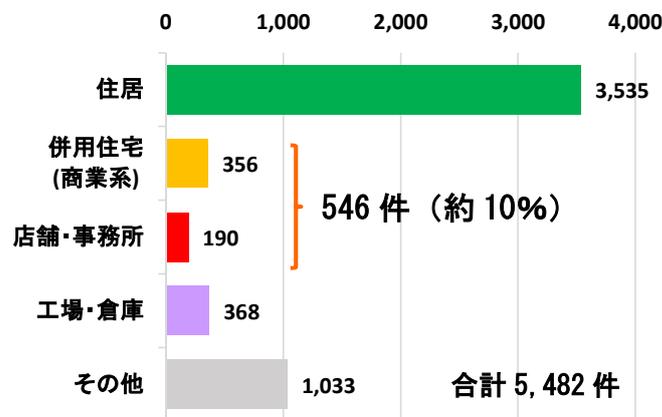
(3) 商業系および住居系(用途地域)の指定状況と建物用途

- 駅周辺地区においては、商業系の用途地域が広く指定されているものの、立地している建物は住居系の利用が多く、商業系の利用は少なくなっている。

【建物用途】



【建物用途別建物数】

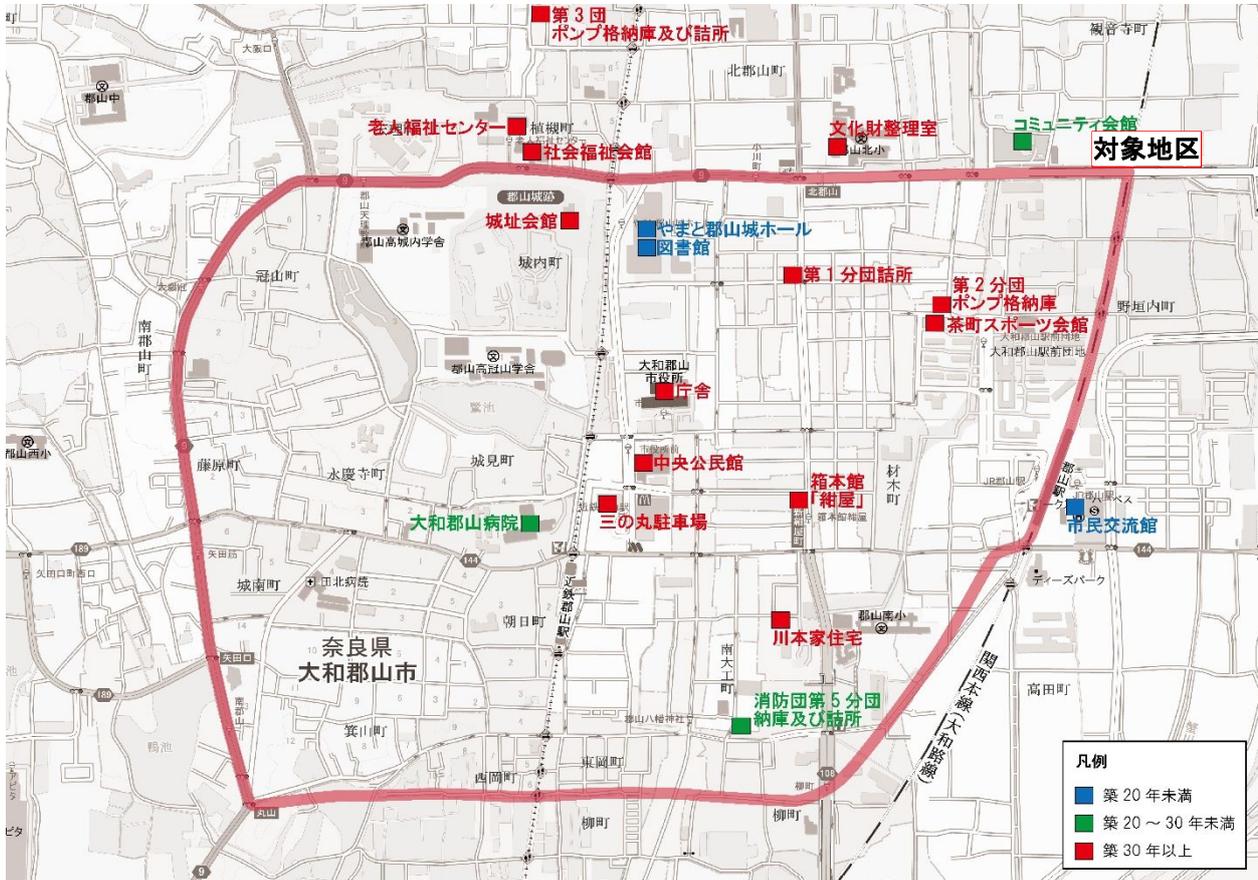


資料: 都市計画基礎調査(H26)

図 4.9 駅周辺における商業用途内の商業施設の状況

(4) 公共公益施設状況

- 駅周辺地区においては、役所等の市の中核を担う施設が立地しているものの、市役所庁舎や中央公民館など、多くの市民が利用する主要な施設等も築 30 年以上に達しており、その老朽化が懸念される。

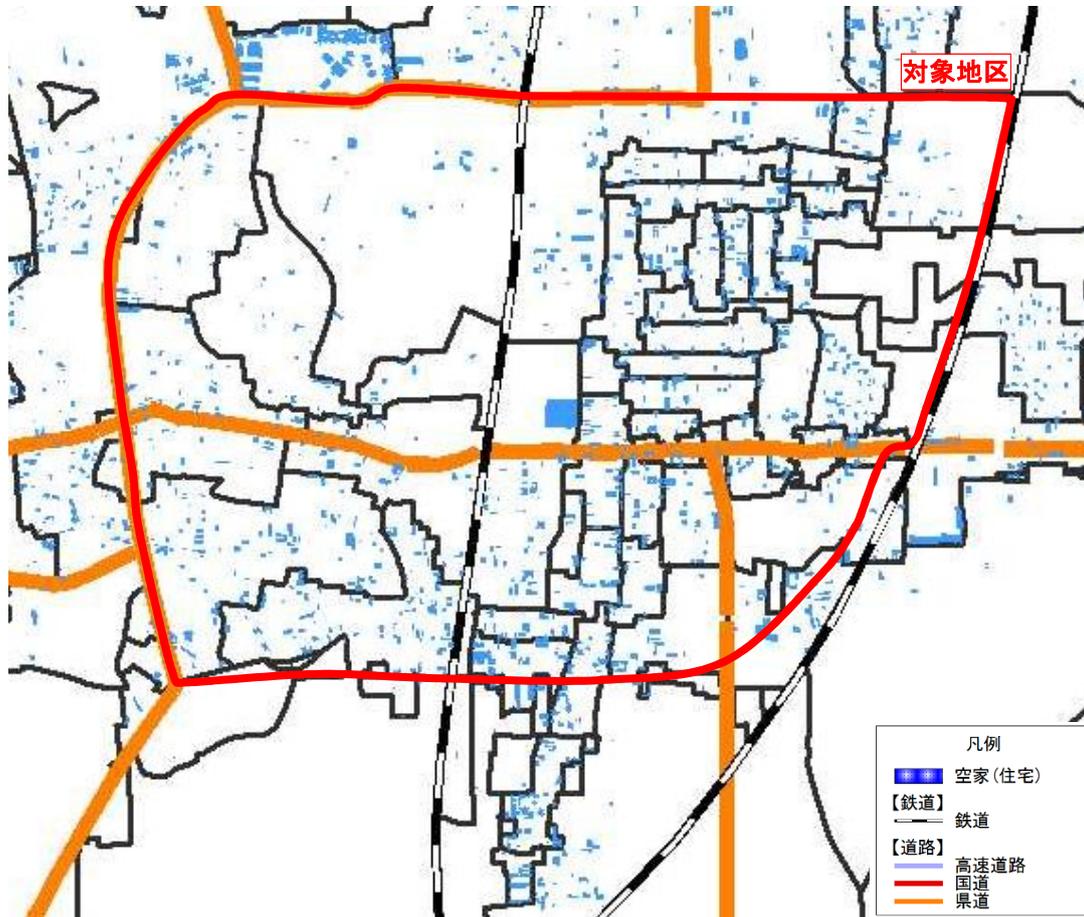


※市民文化系施設、スポーツ・リクリエーション系施設、行政系施設を対象
資料: 大和郡山市における公共施設マネジメントに関する共同研究報告書より作成

図 4.10 主な公共公益施設状況

(5) 空き家等の土地の有効活用状況

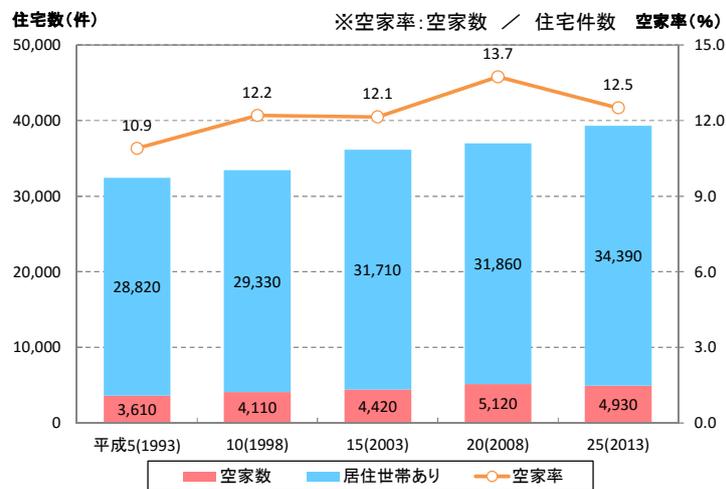
- 市全域での空き家は、12.5%を占め、近年その数は増加してきている。
- 駅周辺地区にも空き家は広く分布しており、敷地が小さな駅東側に比較的多く分布している。



資料：住宅統計調査、住宅・土地統計調査（H25）

図 4.11 空き家の分布状況（駅周辺地区）

■全市の空き家率



資料：住宅統計調査（H5）、住宅・土地統計調査（H10～H25）

図 4.12 空き家率（全市）

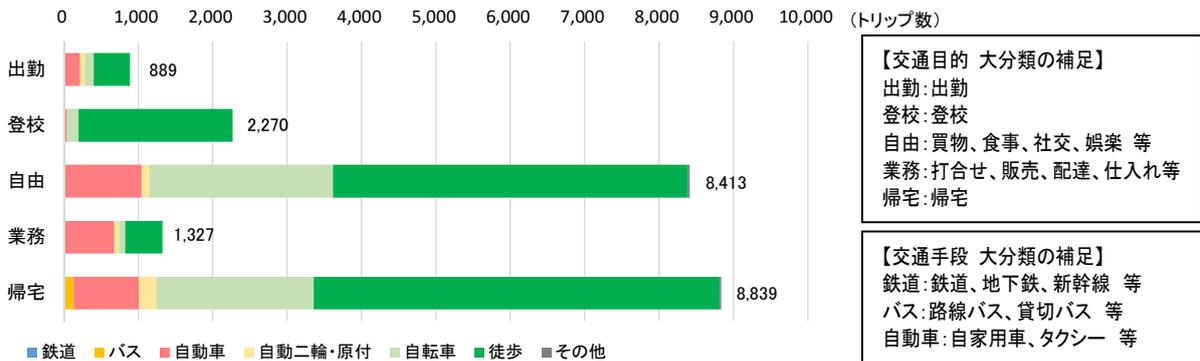
4.3 交通状況

(1) 駅周辺地区に係る交通流動

1) 駅周辺地区内々の目的別交通手段

- 駅周辺地区の内々交通は、帰宅目的を除けば自由目的が多くなっている。
- 移動手段は徒歩が多いものの、出勤や業務目的の交通では自動車、自由目的の交通では、自転車も多く利用されている。

※内々交通：同じエリアに発着する交通

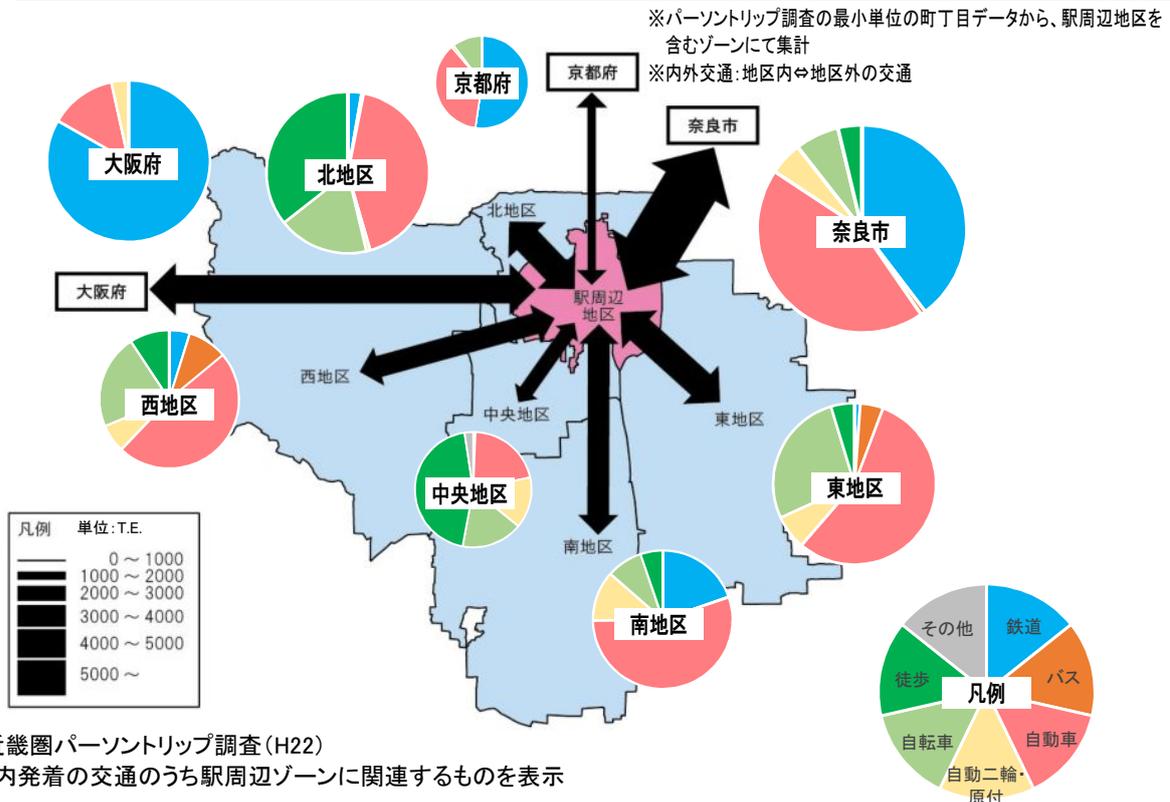


資料：近畿圏パーソントリップ調査(H22)

図 4.13 駅周辺地区内々交通における目的別交通手段

2) 駅周辺地区内外交通

- 地区内外交通は市内に関連する流動と比べ、奈良市や大阪府との流動が多くなっている。
- 市内移動及び奈良市への移動は自動車交通が多く、一方、京都府や大阪府との移動は、鉄道が多く利用されている。



資料：近畿圏パーソントリップ調査(H22)

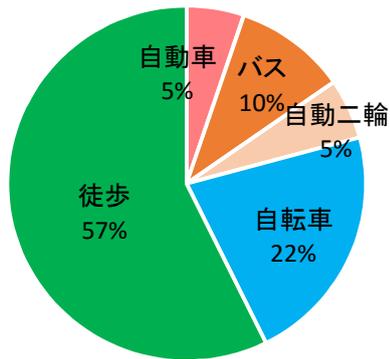
※市域内発着の交通のうち駅周辺ゾーンに関連するものを表示

図 4.14 駅周辺地区発着の交通手段

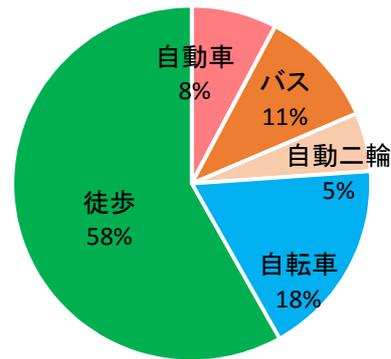
(2) 近鉄郡山駅の利用交通手段

- 近鉄郡山駅からの端末利用交通手段は、約 6 割が徒歩となっており、自転車をあわせると全体の約 3/4 になる。
- 全ての目的交通において、徒歩の利用が多いものの、登校や自由目的では自転車の利用も多くなっている。
- このほか、バス、自家用車、自動車二輪を端末交通手段とする割合が約 1/4 あり、この傾向は平成 12 年～平成 22 年にかけて顕著な変化はみられない。

【平成 12 年】



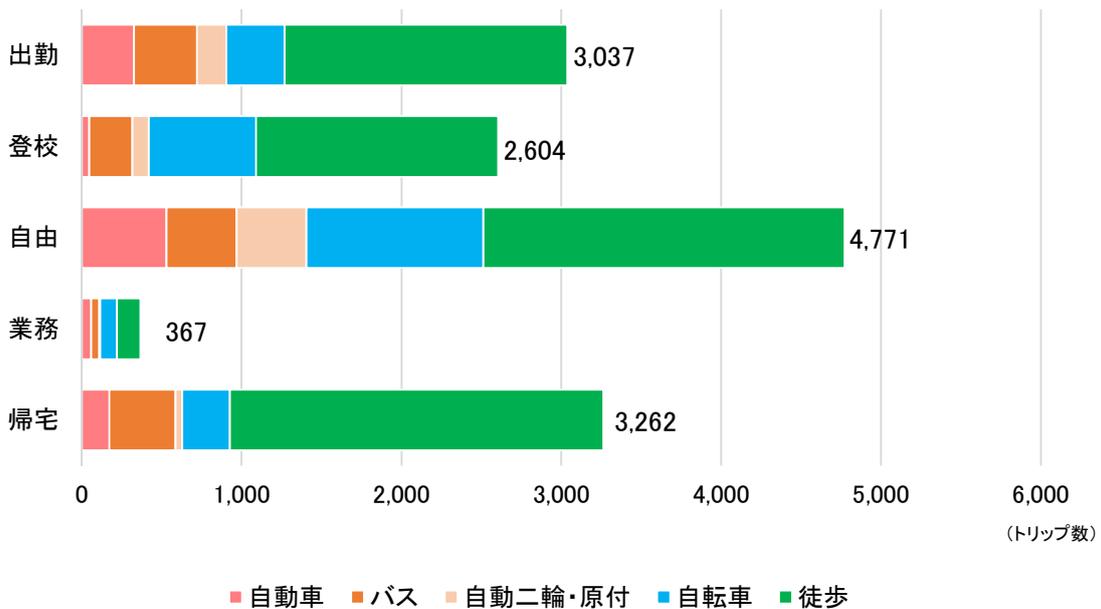
【平成 22 年】



資料：第 4 回京阪神 PT 調査結果 (H12)、第 5 回近畿圏 PT 調査結果 (H22)

図 4.15 近鉄郡山駅の利用交通手段

【平成 22 年近鉄郡山駅利用の目的別交通手段別】

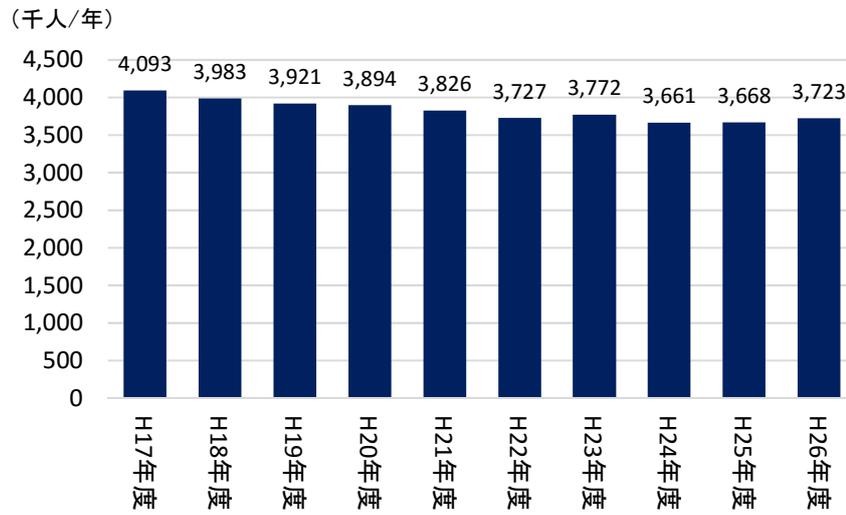


資料：第 5 回近畿圏 PT 調査結果 (H22)

図 4.16 近鉄郡山駅の目的別交通手段

(3) 近鉄郡山駅利用状況

- 近鉄郡山駅の利用状況は、平成 17 年からわずかながら減少傾向にある。



資料: 奈良県統計年鑑(各年度)

図 4.17 近鉄郡山駅の乗車人員の経年変化

(4) 路線バス・公共(コミュニティ)バス等 運行状況

- 大和郡山市の主要バスターミナルである近鉄郡山駅を発着する路線バスは、1 日当たり 169 本運行されている。
- 特に小泉駅方面、イオンモール大和郡山方面等の運行本数が多くなっている。
- また、コミュニティバスが運行されており、3 系統いずれも近鉄郡山駅を連絡している。

表 4.2 近鉄郡山駅発着の路線バス運行状況

行先	本数(平日)
矢田寺前	5
小泉駅東口(泉原町)アピタ・泉原町)	52
法隆寺前(郡山総合庁舎、近鉄郡山駅、小泉)	8
奈良学園	25
春日大社本殿(小泉、西の京、薬師寺P、県庁前)	9
若草台	16
イオンモール大和郡山	54
合計	169

資料: 奈良交通株式会社ホームページ

表 4.3 コミュニティバス運行状況

コミュニティバス	行き先	本数(平日)
元気城下町号	近鉄郡山駅、青藍病院、平和団地 等	6
元気平和号	近鉄郡山駅、九条公園、平和公民館	4
元気治道号	近鉄郡山駅、オークワ筒井店、治道公民館	3

資料: 大和郡山市ホームページ

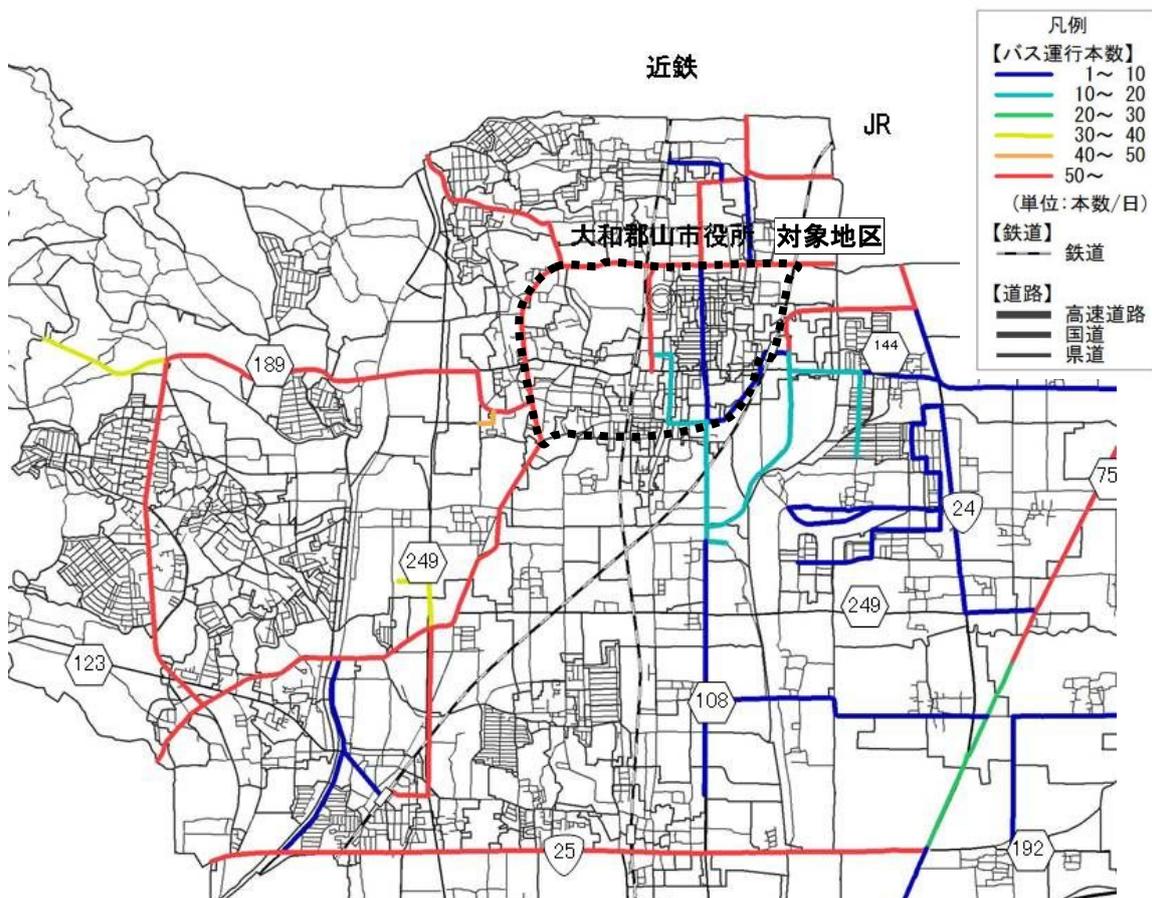


図 4.18 近鉄郡山駅発着のバス運行本数(平日)

(5) 道路交通や道路幅員状況

- 駅周辺地区の地区内道路は、城の防衛機能を持つものとして構成された経緯を踏襲し、幅員が狭く、屈折した箇所もみられるため、自動車と歩行者、自転車等が錯綜し、自動車等のスムーズな通行や歩行者の安全な歩行環境が確保されていない。
- 駅アクセス道路及び広場は、送迎車両で混雑が発生している。

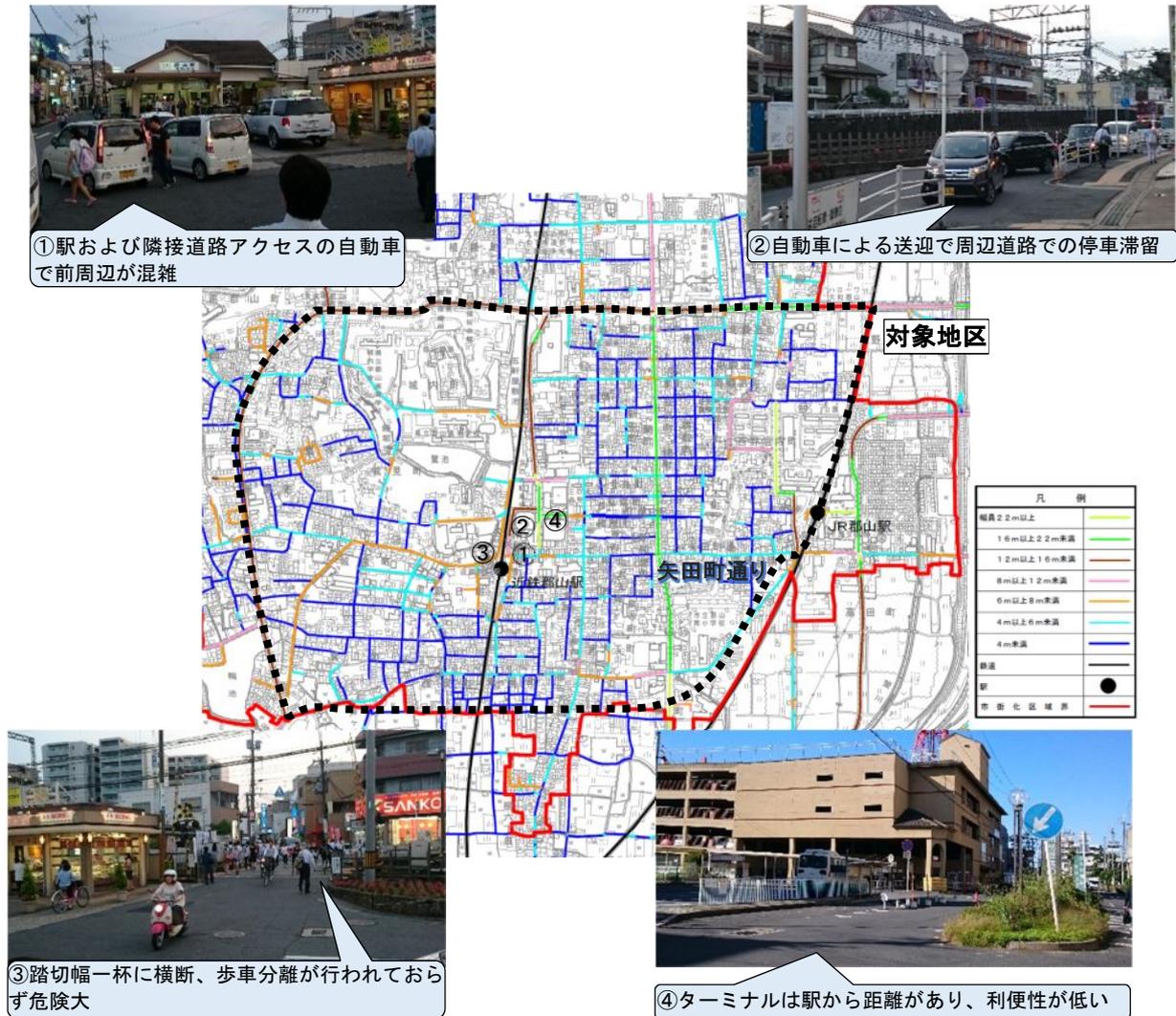


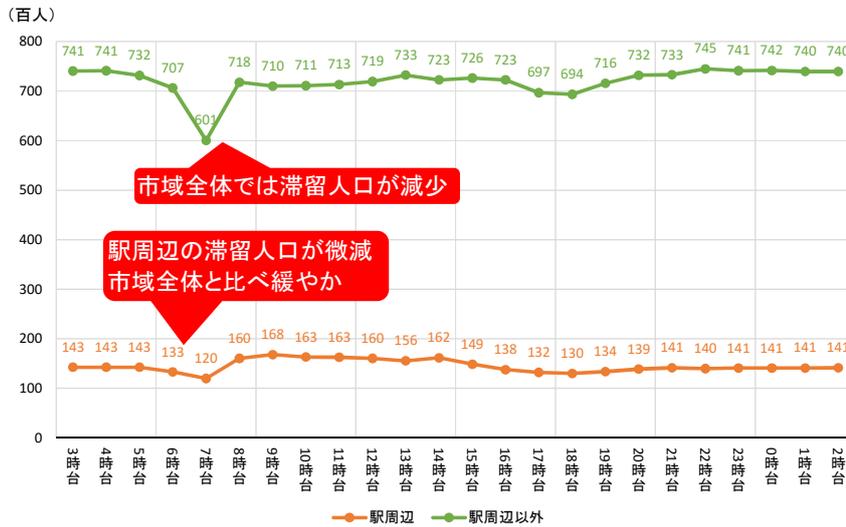
図 4.19 駅周辺における道路幅員と交通状況

4.4 まちのにぎわい

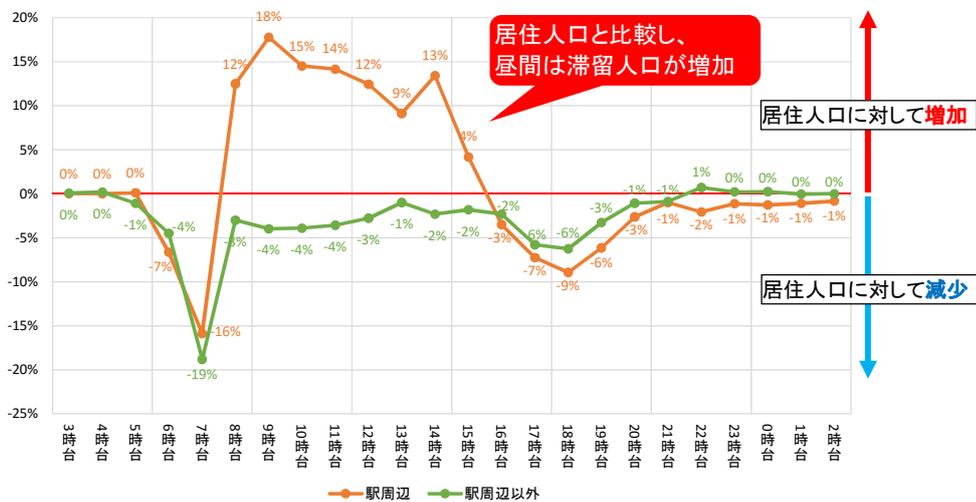
(1) 滞留人口変動

- 駅周辺地区においては、通勤時間である7時台は居住人口と比べ、滞留人口が微減となるものの、昼間のほとんどの時間帯で滞留人口が増加する。
- 市域全体では、ほとんどの時間帯で滞留人口が居住人口を下回る。

【大和郡山市の滞留人口変動(24時間)】



【大和郡山市の滞留人口変動(24時間・居住人口に対する割合)】



資料:平成 22 年国勢調査、近畿圏 PT 調査結果 等

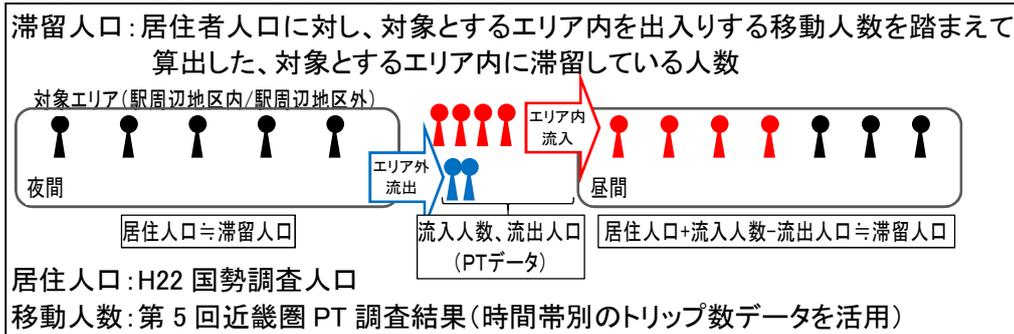
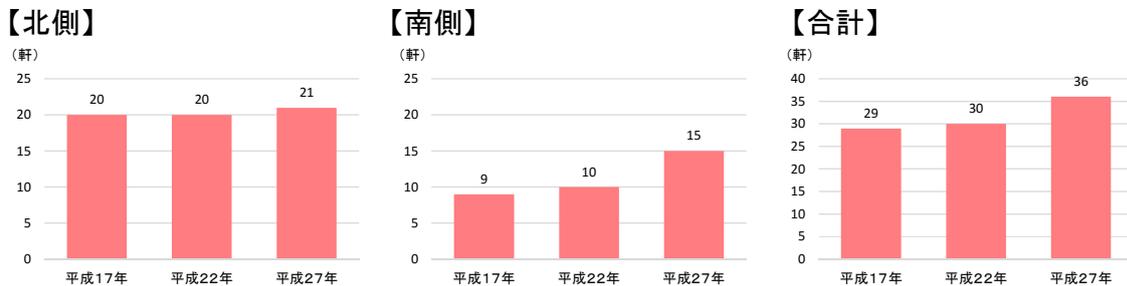
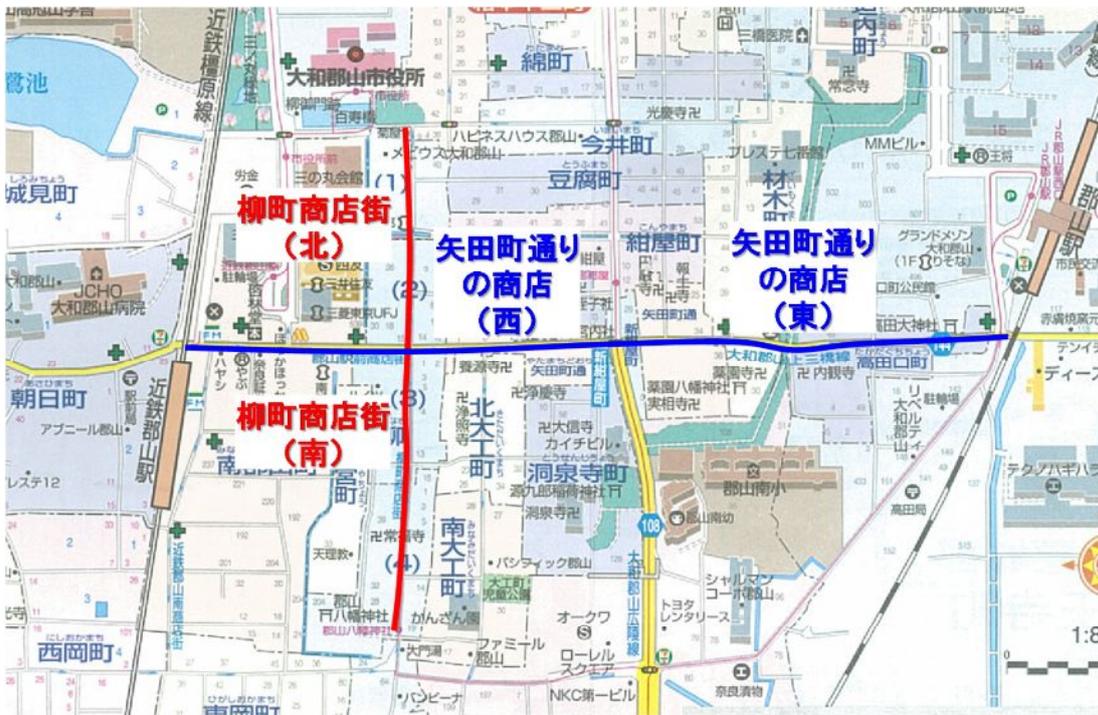


図 4.20 駅周辺地区の滞留人口変動

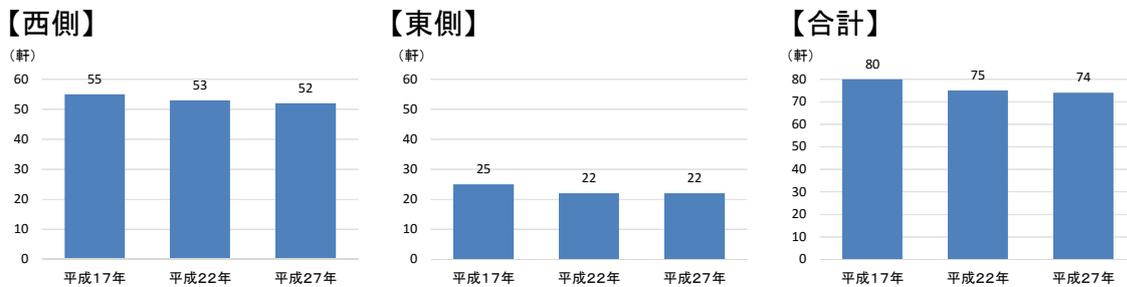
(2) 商店街等の状況

- 柳町商店街の店舗数は、NPO 等地域の空き家、空き店舗活用により年々微増傾向にあるが、矢田町通りの商店は、年々減少傾向にある。



資料)市提供資料

図 4.21 柳町商店街の店舗数



資料:市提供資料

図 4.22 矢田町通りの商店店舗数

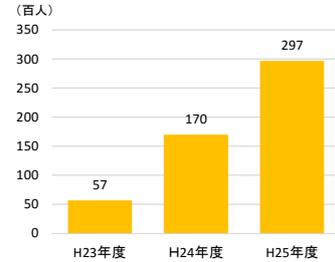
(3) 市内城下町・商店街等におけるイベント等

- 駅周辺地区では地区の独自のアイデアで地域や商店街のにぎわいをつくるイベント等が開催されている。

奈良・町家の芸術祭はならあと



入場者数

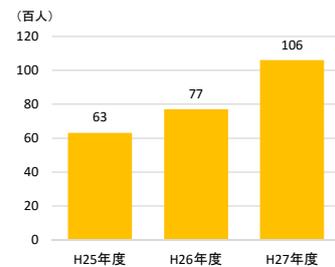


※期間中の延べ人数

大和な雛まつり



入場者数

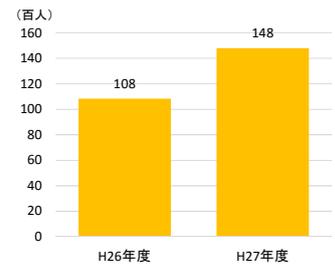


※旧川本邸、音でつなぐ大和ひなまつりの計

柳神くん祭



入場者数



4.5 地域資源

- 駅周辺地区付近には、郡山城跡や社寺・町家等の歴史的建造物など、城下町の歴史にちなんだ資源が残っており、貴重な観光資源となっている。
- 金魚の養殖に代表される伝統産業は、大和郡山市の独自の文化を発信し、また、こうした地域資源を題材にしたまつり、イベントも開催されている。
- このほか、外堀緑地などの自然環境が、市民に潤いを与えている。

郡山城跡(城内)



社寺・町家



伝統産業



まつり・イベント



自然環境



資料：大和郡山市ホームページ、大和郡山市観光協会ホームページ

図 4.23 地域資源・イベント等